

やまもと こぐまサロン

山元こぐまサロンを活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト3



©枚 稔・日下真由美

成 果 報 告 書

(令和5年6月～令和6年3月)

完 結 編

特定非営利活動法人ポラリス

◆目次

- P3～ NPO法人ポラリス
「山元こぐまサロン」を始めたきっかけ
- P5～ プロジェクトの全体像
・実施体制
・プログラムと目標
・実践における工夫点
- P8～ 実施プログラム
1.ユニバーサル学習
- P15～ 2.みんなで作る・アートのじかん
- P26～ 3.そうだ！たいそうに行こう
- P28～ 4. うたカフェ
- P34～ 5. 宿泊・自然体験@宮城県蔵王の家
- P37～ 6. ICT体験倶楽部
- P38～ みんなで作る・やまのもののアート展 ～山元こぐまサロン成果報告会2023
- P48～ 連携協議会
・第1回連携協議会
・第2回連携協議会
- P52～ 成果の検証
- P57～ 共に学び 生きる 共生社会コンファレンスin みやぎ
- P59～ 「地域共生社会を具現化する「こぐまサロン」の取組み
東北福祉大学 森明人先生（山元こぐまサロン アドバイザー）



NPO法人ポラリス

2015年 NPO設立。同年、就労継続支援B型事業「ポラリス」を開所。

障害のある人たちと一緒に「地域ですてきに はたらく・たのしむ・まなぶ」をキーワードとし、産業、観光、文化・芸術、行政、教育など、様々な団体と連携しながら、地域全体が優しくなることを目指して活動している。誰もが気軽に訪れ、対話をし、孤立を防ぐ場づくりをしている。ユニバーサルな学びとして開設した「こぐまサロン」では、障害の有無なく共に学んでいる。



はたらく



たのしむ



まなぶ

設立当時の学びの場



設立当時は、精神科医師による心のケアとダンスワークショップをあわせたり、アート&ケアの「対話と学びの場」を企画していた。



2016年、再建されたJR山下駅前に「山元が元気になるアート」というテーマで、壁画「Happyやまのもと」のデザイン制作をした。山元町の歴史・民俗・文化・自然について、障害のある人となない人が一緒に学び、アートワークショップでモチーフを作り、山元町の魅力をその壁画に表現した。

「山元こぐまサロン」を始めたきっかけ

2018年(平成30年)
山元町防災拠点・山下地域交流センターが完成
(つばめの杜ひだまりホール)



社会教育施設を大いに活用しよう!

(きっかけ)

震災から6年後に、新たな社会教育施設がJR山下駅前に建てられ、これからこの施設を気軽に障害者が使うことができるように、定期的に「集う&学ぶ場」を企画した。

共に「学び合う」プログラムづくり

(令和元年)
ポラリス
企画事業



(令和2年)
山元町
委託事業



(令和3年)
文部科学省
実践研究事業

「山元こぐまサロン」を活用した
障害者の学びの場 共創プロジェクト

「学び」をたのしく

やまもと
こぐま
サロン



1年目はポラリスの試行的な企画事業として、翌年には町の委託事業として実施した。その頃に、文部科学省実践研究の公募について知り、この事業は、私達NPOと行政が連携できるチャンスになると考えた。

保健福祉課と生涯学習課に企画提案書を作成し相談に行き、趣旨を理解され、「できる事は協力しますから、まずはポラリスさん、やってみてください。」と回答をもらって、連携できることになった。

令和3年度から文科省事業として実践し、今年度で3年目。

プロジェクトの全体像

事業名

「山元こぐまサロン」を活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト3

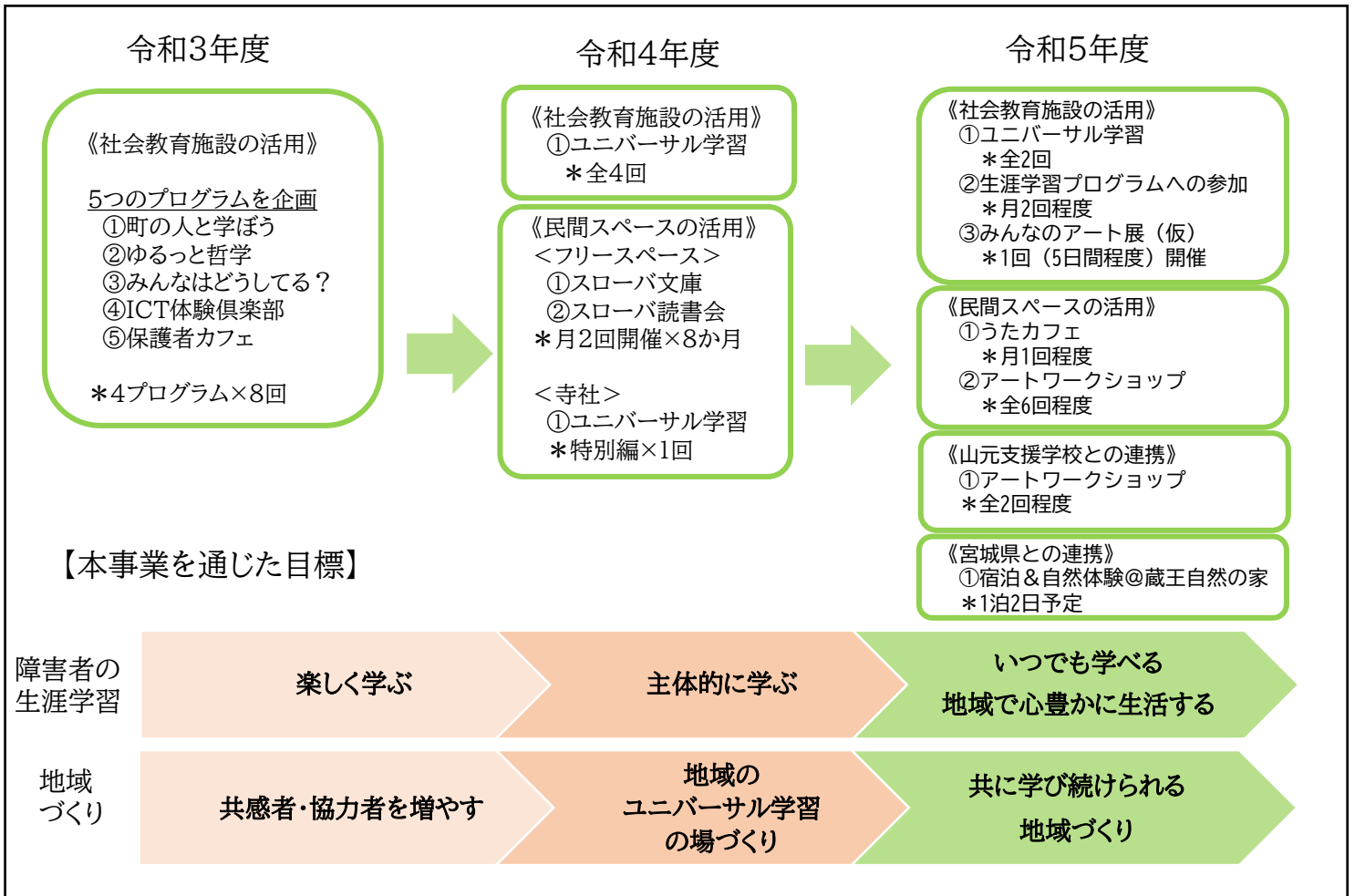
学校卒業後の障害者、特に町内の就労継続支援B型事業所ポラリスに所属する当事者ら(主に知的・発達・精神障害の方)が行政・NPO・地域の協力者と、主体的に学びの場づくりの企画・実践に参加(共創)しながら、地域の中で心豊かに生活すること、また障害のある人となない人が共に学び合うことができる地域づくりを進めること、さらに宮城県山元町での障害者の生涯学習が今後も持続可能であるためのプログラム開発に取り組む。

- 1.実施期間 令和5年6月～令和5年12月
- 2.会場 プログラムに応じて、以下の会場とする。
 - ①つばめの杜ひだまりホール(山元町防災拠点・山下地域交流センター)
 - ②ふるさとおもだか館(山元町防災拠点・坂元地域交流センター)
 - ③ひろばポラリス(地域のフリースペース)
 - ④宮城県立山元支援学校
 - ⑤蔵王自然の家(県立の社会教育施設)
- 3.障害種 主に知的障害、精神障害、発達障害の方
- 4.障害者属性 学校卒業後の福祉施設利用者、在宅生活者、支援学校生徒
- 5.参加人数 会場の定員に応じて10名～60名程度
- 6.ボランティア 東北福祉大学の大学生
- 7.アドバイザー 森明人氏(東北福祉大学 准教授)
- 8.告知方法 町の広報誌、SNSの活用

実施体制



プログラムと目標



【目標のアップデート】

●障害者の生涯学習について、1年目「楽しく学ぶ」、2年目「主体的に学ぶ」、3年目には「いつでも学べる、地域で心豊かに生活する」と言うことを目指して取り組んだ。

●地域づくりとしては「共感者、協力者を増やす」「地域のユニバーサル学習の場づくりを定着させる」「共に学び、続けられる地域づくり」と目標をアップデートさせながら取り組んできた。

【実践のアップデート】

●時間や回数について
1年目には、午前・午後とプログラムを組み合わせて取り組んだが、「1日だと疲れる」と言う感想が出て、2年目は午前だけのプログラムにしたが、その分日数が増えた感じがした。3年目も午前か午後どちらかにした。

●企画の担当について
全てコーディネーターが企画する方法から、講師に企画をお任せするプログラムも加えてみた。

●実践方法について
当団体が企画したプログラムに参加してもらう方法に加え、自分たちが町の既存の生涯学習プログラムに参加させてもらう方法も実践した。

●会場について
1カ所から2年目には2カ所、3年目には5カ所に増えた。

●対象者について
2年間は学校卒業後の障害者を対象にしていたが、山元支援学校の先生に講師を依頼し成人した障害者との学ぶ機会を作り、3年目には支援学校に在学中の生徒と学び合う（アートワークショップ）機会を作ることができ、その成果報告としてアート展にも展示やワークショップで一緒に行うことができた。

実践における工夫点

行政(福祉×教育)、障害者基幹相談支援センター、宮城県立山元支援学校、山元町文化協会、山元町体育協会、アーティスト、東北福祉大学、障害のある当事者、保護者等に委員を依頼して連携協議会を組織した。コーディネーターはボラリスが担当し、行政をはじめ、委員の方々に様々な役割分担をお願いしながら、プログラムの企画を進めた。

【工夫した点】

(内容について)

- ・タイムリーなこと
- ・楽しく学べること
- ・興味があること
- ・やってみたいこと

(協力者/講師について)

- ・これまでお会いしたことがないような方と出会い理解し合うチャンス
 - ➡これを機会に障害者理解を深めてもらう
 - ➡これを機会に地域の協力者になってもらう

【考慮した点】

- 集団が苦手だったり疲れやすい当事者も安心して参加できるように休憩室を設けた。
- 最初に、コーディネーターや支援スタッフによるアイスブレイク(人形を使ったコントなど)を取り入れ、緊張をほぐす工夫をした。
- 当事者からの質問を講師が答える場面をつくり、お互いの距離を近くしたうえで講師の話に集中できる環境をつくった。
- グループワークでは付箋に自由に書いて(描いて)立場を超えて対等に自分の気持ちを話せるようにした。
- グループワークのファシリテーターをスタッフや関係機関スタッフに依頼し、各々が気軽に話せる場づくりに取り組んでもらいながら、共に学ぶことが地域づくりにつながることを実感してもらった。
- 一般の参加者に障害者と学び合うことを体験してもらいながら、障害について理解しながら一緒に考えたり話したりできるような関係をつくった。
- 字を書けなかったり言葉で話せない人には、前もって自分の気持ちを伝えるイラストや写真を準備する予習の時間をつくり、グループワークに主体的に楽しく参加できるようにした。



1. ユニバーサル学習

【第1回】保健師さんに聞いてみよう！からだのこと、健康のこと

- 日時：令和5年7月6日 10:00～11:30
- 会場：ひだまりホール 会議室5
- 講師：山元町保健福祉課 保健師 澤西祥子さん、遠藤聖安さん、作業療法士 武田綾子さん

学びのテーマとして、当事者アンケートにおいて最もニーズの高かった「健康」について、保健師や参加者との対話を通じて学んだ。食事や運動、睡眠、健康診断の受け方など、障害の有無にかかわらず、健康なからだをつくるうえで日常的に大切なことを学び合った。

【第2回】もっと好きになる みやぎ・やまもと

- 日時：令和5年8月31日 10:00～11:30
- 会場：ひだまりホール 会議室5
- 講師：宮城県企画部 部長 武者 光明さん

講師である武者さんの県庁職員としての歩みを伺いながら、働くことよろこびや仕事のやりがい、困難の乗り越え方などを共に考えた。また参加者が、自分の住む市町村や宮城県のことを知り、これからどんなまちになっていったらよいかを、立場を超えて皆で考え合えるプログラムを共創した。

*当初検討していたテーマを変更。本企画を3年間継続したユニバーサル学習の最終回と捉え、県庁職員を講師に招き、参加者がより広い視野で、自分の住む町について考える機会とした。

【特別編】「レッツ！！古事記」

- 日時：9月19日(火)13:00～15:00
- 会場：ひろばポラリス
- 講師：歴史論者 三石晃生さん

「古事記」という本の名前は聞いたことはあるが、実際どんな内容なのか。また、難しそうな日本の古典を誰もが楽しく学ぶことができるのか。「古事記」解説本の著者でもある歴史論者、三石さんを講師に招き、ユニバーサル学習を実践した。障害の有無に関わらず、参加者が共に、講師の開設をききながら、課題図書『レッツ！！古事記』(五月女ケイ子・ポプラ文庫)を読んだ。



ユニバーサルな学びの場 その1

保健師さんに聞いてみよう！

からだのこと・健康のこと

YouTube「ポラリスチャンネル」
ユニバーサルな学びの場①
保健師さんに聞いてみよう！
からだのこと・健康のこと



ユニバーサルな学びの場 その2

もっと好きになる！
みやぎ・やまもと



YouTube「ポラリスチャンネル」
ユニバーサルな学びの場②
「もっと好きになる みやぎ・やまもと」



●参加者数：126名

属性	7/6	8/31	9/19	計
障害者	15	14	9	38
保護者	4	4	2	10
一般	8	17	11	36
ボランティア	-	-	1	1
講師	3	1	1	5
関係機関	5	2	1	8
行政	1	10	-	11
支援スタッフ	7	7	3	17
	43	55	28	126



保健師さんに聞いてみよう！からだのこと・健康のこと

●日時:7月6日(木)10:00~11:00

●会場:つばめの杜ひだまりホール

●参加者:計43名

講師:山元町保健福祉課 保健師 澤西祥子さん、遠藤聖安さん、作業療法士 武田綾子さん
当事者:15名(うち初参加者2名) 保護者:4名(うち初参加者1名) 行政:1名(初)
民生委員:6名 一般:2名 関係機関:5名 スタッフ:7名

●プログラム内容

- ・開会、「山元こぐまサロン2023」の紹介
- ・第一部:保健師さんに聞きたい
 - 1)講師自己紹介
 - 2)わたしたちのお悩み
 - ①気分のこと →ひとりで悩まない、誰かに相談することが大切
 - ②からだの痛み →無理なく、少しずつ体を動かすことが大切
 - ③生活習慣 →食事・運動・お酒・たばことの上質な付き合い方
- 休憩—
- ・第二部:グループワーク「健康のためにやりたいこと・できることを考えよう」
 - 1)自己紹介 ~ 話し合い(6チームに分かれて) ~ 発表
 - 2)講師からのコメント
- ・次回予告、各種ご案内、閉会

●成果

◆当事者が楽しく、主体的に学ぶ

- ・学びやすい/楽しい/参加しやすい内容か?
→「たのしい」32% 「わかった」64% 「びっくり」0% 「こまった」0% 「むずかしい」4%
(参加者アンケートより:有効回答25)
- ・当事者がサロン運営に参加できたか?
→15名が、資料準備、会場運営等に参加できた。

◆新しいつながりを作る

- ・当事者1名とその家族1名が初参加された。
- ・新たに3名が、プログラム講師を担当された。
- ・一般参加された1名が、グループワークの運営に協力された。

(その他)

- ・講師に、当事者が学ぶ姿やグループワークで積極的に発言する姿を見ていただき、障害者の生涯学習を通じた地域づくりについて理解をしていただくことができた。
- ・役場の保健師さん等のお顔と名前、また町の検診や健康相談について、参加者に知ってもらう機会となった。
- ・初参加の当事者が、ほかの当事者と一緒に会場準備や片付けに参加することができた。
- ・体調を崩した当事者2名も、個室で休憩しながら、自分のできる範囲で参加することができた。
- ・グループワークでは、5名の当事者が発表担当を務めることができた。
- ・地域の関係機関や民生委員の方々、広報やまもとを見て参加された一般参加者が、グループワークの際に周りの当事者のサポートを自然にされていた。

●課題

- ・会場が明るかったため、スライドが見づらかった。次回以降は濃い色でスライド作成する必要あり。

●感想

(当事者)

- ・もう少し社会福祉士のこととか長く聞いてみたかった。仕事のこととか聞きたかった。
- ・私は、脂質脂肪の欄だけCで高いので、脂質脂肪の減らし方を聞きたかった。
- ・体調不良により後半のみの参加でしたが、書きたいことや絵を書くことができたのでよかった。
- ・前で発表したので、緊張しました。
- ・運動は思いっきりとかたくさんでもなくていいんだなということがわかりました。
- ・保健師さんと健康について良い勉強になりました。
- ・身体の調子とか心の調子を聞いて私に当てはまるのを感じました。
- ・健康管理のことがわかりました。
- ・病気について丁寧にアドバイスをくれた。
- ・保健師さんも山元町体操をやっていることがわかった。
- ・生活習慣病のことや、運動不足予防や山元町の体操などがわかりました。
- ・今日やった体操が楽しかったです。
- ・スライドと説明の割合が丁度よく分かりやすかった。
- ・動きすぎると、体が痛くなってしまうという時は、ゆっくり休んだり、少しずつ体を動かすと良いということが勉強になりました。山元町体操やってみて、少しですが、体の痛みが楽になりました。
- ・いろいろな方の悩み事に答えていただき勉強になった。

(保護者)

- ・やっぱり食事って大事ですね。今年は散歩に挑戦したいです。好きなことをしてリラックスすることが大切だと思いました。
- ・三日坊主にならないように体を動かしたり歩いたりしたいです。
- ・知っていても改めて勉強になりました。ありがとうございました。

(民生委員)

- ・体を動かすこと。
- ・同じ姿勢でいると、痛みが出ることもあることがわかった。
- ・食事に気をつけたり、飲酒、タバコにも注意が必要。
- ・簡単体操、山元町体操、かかと落とし体操が勉強になりました。
- ・アルコールの1日の摂取量や山元体操など勉強になりました。
- ・山元体操、もう少しいろいろな種類を教えてくださいと思った。
- ・あらためて健康が大事だということがわかりました。

(関係機関)

- ・グループワークでは、各グループいろいろな意見が出されていて、参考になり楽しかったです。
- ・役場の保健師さんや、OTさんの顔と名前がわかって安心しました。
- ・グループワークで、皆さんがそれぞれ日々健康に気をつけて過ごしていることがわかり、参考になりました。
- ・保健師さん、作業療法士さんのお話がとても分かりやすかったです。
- ・自分も糖尿病があるので身に染みました。

(一般)

- ・保健師さんの仕事が多少わかった気がする。
- ・先生方もスタッフさんも雰囲気作りを気にしている模様。



先生への質問タイムでは、「得意料理」や「好きな動物」を質問し、アイスブレイク。



「笑って過ごす」「ヨガ」「農作業」など、健康に過ごすためのアイデアを出し合いました。



グループワークでは発表者を担当するなど当事者が積極的に参加していました。



もっと好きになる！みやぎ・やまもと

●日時：8月31日(木)10:00~11:30

●会場：つばめの杜ひだまりホール

●参加者：計55名

講師：宮城県企画部 武者光明さん
当事者：14名(うち初参加者2名) 保護者：4名
宮城県庁：5名(うち生涯学習課3名、復興支援伝承課2名)
山元町役場：5名(うち生涯学習課3名、総務課1名、保健福祉課1名)
民生委員：7名 一般：10名 地域関係機関：2名 スタッフ：7名

●プログラム内容

- ・開会
- ・ごあいさつ：山元町役場 生涯学習課 課長 伊藤孝浩さんより
- ・やまもとこぐまサロンについて：NPO法人ポラリス 代表理事 田口ひろみより
- ・第一部：先生のお話
 - 1)先生のこと、教えて！ 当事者からの一問一答コーナー
 - 2)県庁のお仕事について知りたい！
 - 3)気になる宮城のこと いままで・これから
- 休憩—
- ・第二部：グループワーク「宮城のオススメはここ！わたしたちの地元自慢！」
 - 1)自己紹介 ～ 話し合い(6チームに分かれて)～ 発表
 - 2)講師からのコメント
- ・アンケート記入、各種ご案内、閉会

●成果

◆当事者が楽しく、主体的に学ぶ

- ・学びやすい／楽しい／参加しやすい内容か？
→「たのしい」56% 「わかった」32% 「びっくり」6%
「こまった」3% 「むずかしい」3%
(参加者アンケートより：有効回答32)
- ・当事者がサロン運営に参加できたか？
→14名が、資料準備、会場運営、受付等に参加できた。

◆新しいつながりを作る

- ・新たに1名が、プログラム講師を担当された。
- ・福祉や教育以外の分野の県職員(震災復興・伝承)も初めて参加された。今後の復興・伝承を支援する際に障害者支援についても視野に入れていくことを検討され視察に来てくださった。「参加して、とても感動した」と話されていた。



「好きなスポーツ」や「小さな頃の夢」など、武者先生のお人柄の分かる質問が当事者から飛び出し、会場は一気に和やかに。

(その他)

- ・講師として、初めて宮城県庁の職員がユニバーサル学習に参加された。
- ・障害のある方もない方も、「まちづくり」の専門家ではない一般参加者も、皆が立場を超えて同じテーブルで、地域について学び合う姿に、講師からは「地域づくりの原点を体感することができ、刺激を受けました。」とコメントをいただいた。
- ・県庁や役場、また会場であるひだまりホールの職員も多数参加され、学び合いの様子を体感されていた。また町の広報誌の取材も入られた。
- ・アドバイザーとして参加された東北福祉大学の森先生からは、「当事者も地域からの参加者も、回数を重ねる中で、場に慣れてきて、お客様感覚ではなく主体的に参加できるようになってきた。」とコメントをいただいた。
- ・参加者アンケートより、「自分達の住む地域の良いところが知れてよかった」、また「県が抱える課題を知ることができた」という感想が多く、皆で県や町の現在や将来について学ぶことができた。
- ・普段は集団活動が苦手な当事者2名が、スタッフのサポートを受けながら、受付の仕事をしっかりと務めることができた。
- ・1名の当事者が、質疑応答の時間に、講師へ質問することができた。
- ・グループワークでは、2名の当事者が発表担当を務めることができた。
- ・障害特性により、文字を読むことや発表することが苦手な当事者たちも、初めて出会うグループ内の参加者のフォローを受けながら、写真を使うなど工夫して自信を持って発表をすることができていた。
- ・スタッフが入らずとも、地域からの参加者がフォローしながら主体的にグループワークを進めることができるようになってきた。

●課題

・当事者の障害特性によっては、講師のお話が難しく感じられた方も一部おられた。
・行政の皆さんがスーツ姿で後ろに並んで立っておられた様子が緊張していた参加者も見受けられた。障害者や地域の方と少しの時間でもふれあっていただくことが、このサロンに参加する価値であるのご理解いただき、今後は是非、立場を超えてグループの中に入り込んでいただければと思った。

●感想(アンケート自由記述より)

(当事者)

・今日は、宮城のことや山元町などのことで、特産品などいろいろわかった。
・宮城県や山元町の魅力がわかった。なかなか若い人だと東京や大阪など都会に目が向きがちなので、若い人にも宮城の魅力や他の県にはない部分をアピールしたり、学ぶところが必要だと感じました。
・皆さん、宮城のことをいろいろ見てるんだなあと感じました。
・グループワークが楽しかったです。みんなでお話しできてよかったです。
・グループワークは時間が全然足らなかったです。
・武者さんは県庁の人で、話が面白かったのでよかったです。自分もベガルタ仙台の試合を見に行っていたことがあったので、身近に感じました。地下鉄の泉中央駅のことを聞いたかったです。
・ちょっと緊張したけど、いい勉強になりました。

(保護者)

・宮城のために考えてくれてありがとうございます。これからもよろしく願います。
・今まで宮城のことをあまり考えなかったけど、書き出してみるといっぱい自慢できる素敵なところがあるんだと思いました。

(民生委員)

・とてもわかりやすくお話しいただき、いろいろな課題に気づかされました。気づくことがまず基本だと思いました。
・県職員の方の仕事が私たちに関わっていることがわかりありがたいと思いました。皆さんと関わることが楽しいです。
・地域づくり(震災後、なんとなく都会的になっている)が、人のつながりを豊かに暮らしやすくなってほしい。
・宮城の良いところ、山元の良いところ、たくさんあることを知りました。
・宮城の出生率が全国的に下から2番目という低さに改めて驚きました。大学で宮城に入学しても、卒業後は他県に転出する人が半分以上という事実に残念な気がしました。宮城に残るような魅力がない企業とか行政の力不足を感じます。
・宮城に素晴らしい人材や企業があることを知らせる宣伝力が必要だと思います。
・宮城県の出生率の低さ、女性が県外に行ってしまうことに不安を感じました。



(関係機関)

・地域づくりの前に地域を知る大切さを感じました。とても良いきっかけを、ありがとうございます。
・同じ県職員の武者部長の話や山元町の良いところをたくさん聞いて楽しかったです。
・参加している人が、立場を超えて実際に話し合える第二部のグループワークがとても良かったです。

(一般)

・日常生活で気づかなかったことを改めて考えるきっかけになりました。
・宮城、山元の良いところ、素晴らしいところを再確認することができました。近隣の町からも参加があり、意見交換できたこともよかったです。
・改めて、魅力に目を向けることができよかったです。「当たり前」の中に魅力があるのかもしれないと思った。お米がおいしいとか。戻りガツオ食べに行きたいです。
・宮城県の計画をスライドで知ることができ、大変役に立った。
・宮城県の出生率が日本46位！
・解決策のない人口減について、もっと具体的に考えさせられました。山元町の政策として、住みやすい町、子育てしやすい町として、第二小学校は少しずつ生徒が増えています。みんなで見守りながら育ててほしいです。
・様々な人が分け隔てなく参加しているのが良かったと思います。



●これから学びたいこと(アンケート自由記述より)

・いろいろなテーマを考えていただいてありがたく思います。こういう学習の機会がもっと広がればいいと思っています。(民生委員)
・障害のある方が生まれてからなくなるまでに受ける支援や使えるサービスなどをわかりやすく知りたいです(地域包括支援センター)
・山元町の文化財について(一般市民)
・山元町の歴史、文化、民俗について知りたいです。(一般住民)
・楽しいゲームなどをみんなで一緒にやりたい。(ボランティア)
・地元の農業や漁業について(一般住民)
・地域が良くなること。(民生委員)
・外国語が得意な人、外国語の先生の話(メンバー)



レッツ！！古事記

●9月19日(火)13:00~15:00 ●会場:ひろばボラリス

●参加者:計28名

講師:三石晃生さん(歴史論者)
当事者:9名(うち初参加1名) 保護者:2名
一般:11名 関係機関:1名 スタッフ:3名
撮影ボランティア:1名

●プログラム内容:

- 1)参加者自己紹介
- 2)開会のご挨拶
- 3)先生のお話
課題図書『レッツ！！古事記』(五月女ケイ子・ポプラ文庫)を、先生の解説を聞きながら読んでいく。
古事記とはなにか? イザナギ/イザナミとは? 神様はどうやって誕生した?...
- 4)アンケート記入、閉会

●成果

◆当事者が楽しく、主体的に学ぶ

- ・学びやすい/楽しい/参加しやすい内容か?
→「たのしい」72% 「わかった」7% 「びっくり」14%
「こまった」0% 「むずかしい」7%
(参加者アンケートより:有効回答11)

- ・当事者がサロン運営に参加できたか?
→3名が、資料準備/片付け等に参加できた。

◆新しいつながりを作る

- ・新たに1名が、プログラム講師を担当された。
- ・地元神社の神主や、民間企業の経営者、町外の地域おこし協力隊や相談支援専門員など、さまざまな立場の方が参加された(一般/関係機関12名中、8名がユニバーサル学習初参加)。
- ・地域活動支援センターを会場としたことで、普段地活で活動されている当事者も気軽に参加することができた。

(その他)

- ・「ゆる〜く聴いてもらってOK」との講師の声がけにより、さまざまな年代・特性を抱える当事者が、体調に合わせて楽しく参加することができた。
- ・集団での学びの場に初めて参加した当事者が、古事記における漢字の読み書きなどに興味を示しながら、最後まで参加することができた。
- ・テーマが一般参加者にとっても魅力的だったのか、遠く村田町や大崎市からも参加されていた。
- ・80代の高齢の一般参加者も、補聴器を使いながら真剣に参加され、さらに学びへの意欲を湧かせていた。
- ・一般的にはタブー視される、生殖に関わる話題も、講師がユーモアを交えながら軽やかにお話を進められたので、参加者皆で明るい雰囲気の中で学び合うことができた。

●課題

- ・予想以上に参加者が集まったため、準備していた会場では手狭に感じられた。
- ・限られた時間のなかで進行しなければならず、休憩をとるタイミングが難しかった。

ファンタスティック古事記教授によるユニバーサルな学びの場
障害のある人もない人も、古事記の神さまから生き方を学んでみよう。

解題：レッツ古事記 ～古事記を楽しく学ぶ会～

山元こぐまサロン (特別編)

日時 2023年9月19日(火)
13時～

場所 ひろばボラリス
(山元町高瀬字合戦塚72-35)

講師 三石晃生さん
(歴史論者)



<参加申し込み・勉強会についてのお問合せ>
NPO法人ボラリス 担当: 田口・引地 電話/FAX: 0223-36-7410

文部科学省 令和5年度学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業
「山元こぐまサロン」を活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト3

●感想(アンケート自由記述より)

(当事者)

- ・古事記にはまっちゃいました。
- ・レツツいい勉強になりました。
- ・専門性感があって理解するのが難しかった。これは本当に研究とか勉強とかしている人でないと理解するのが難しいと思った。でも講師の先生の話方はおもしろかった。
- ・古事記というテーマはきいたことがありましたが、実際本を読んだことが無く難しかった。
- ・漢字の読み方がいろいろあるのが分かった。

(一般)

- ・古事記の世界観がどうしてなくなってしまったのか？
- ・古事記について、今まで知らなかったからよく理解できなかったが、語源について知られてよかったです。
- ・日本のことについて楽しく知れました。レツツ古事記、もっと読んでみたいです。
- ・日本史が好きなので、日本の成り立ちを面白く聞けてよかった。
- ・古事記とは難しいのかと思ったら、わかりやすく楽しく教えていただいたので、一つ一つ言葉の意味を解いていくとわかりました。
- ・神様にたくさん名前があるのが不思議だったのですが、パワーアップするたびに変わっていくというのはびっくりでした。
- ・話を聞いているうちにすっかりハマってしまい、もっと勉強してみたいと思った。

●これから学びたいこと(アンケート自由記述より)

- ・三国志
- ・カーボンニュートラル
- ・いつかまた今日の続きが聞きたい。



古事記とはなにか？また古代の色々な神様や、日本の成り立ちについて、マンガも交えながら教わりました。



三石先生の軽快なトークに、県内各地から集まった参加者はどんどん引き込まれて行きました！

『レツツ古事記』を楽しく学ぶ。

9/9にひろばポラリスで、『レツツ古事記〜古事記を楽しく学ぼう』が開催し、講師に歴史論者の三石晃生さんをお呼びしました。三石さんは歴史にとっても詳しく、様々な映画やマンガなどの世界観監修としており、最近では9/5に公開された、『アリスとテレスのまぼろし工場』の世界観監修に携っております。今回三石さんと学んだ『レツツ古事記』は大変おもしろく深いお話で、その中で私達宮城県民にゆかりのある七ツの由来をご紹介します。

七ツの由来

昔中国には包巧亀(あこがひ)という女性のためのお祭りがあったようです。その中で「織姫」という美人で何でもできる神様に、「女性達は美しくなりたい、家事ができるようになりたい」と、今言う好みを上げられるよう、お祈りしていたようです。しかし「織姫」には当分お相手の男性がなくて、美人で何でもできるのに「後氏がないのはおかしい！」ということで、彦星があてられたとのこと。ちなみに昔は「相織」と書いていました。現代に逆むにつれて、七ツになったそうです。

今日は七ツの由来をご紹介しますが、他にも神様は困難を乗り越え、名前が変になる等、楽しく学ばせていただきました。また三石さんで本々生か変わる古事記を出版しており、売上げは全て福島県の被災された子供たちの養育費、くまの子供育内金のために書かれます。この本は約10年前にベストセラーになりました。本当に楽しく古事記を学ばせて！三石さんありがとうございました。

イラスト：三石晃生

当事者作成 「ひろばポラリス」かわら版より抜粋

2. みんなでつくる・アートのじかん

- 日程：令和5年6月～11月のうち、計8回
- 場所：ひろばポラリス(計6回)/宮城県山元支援学校(計2回)
- 講師：今野裕結さん しょうじこずえさん
- 協力：宮城県山元支援学校

●目標

- 障害者が自分自身を表現する体験をする。
- 在学中の生徒や保護者と当事者が一緒にアートワークショップを行うことで、学校卒業後の地域生活をイメージする機会にし、余暇の楽しみ方のひとつとして体験する機会とする。
- 個別の制作活動のほか、障害者と在学中の生徒が共同制作する「コンセプトアート」にも挑戦し、完成した作品を「みんなのアート展」において町内施設に展示することを目指す。

●実施内容

①アートワークショップ：ひろばポラリスでのワークショップ(月1回)

色の組み合わせ方や、展示に関する心得など、アートに関する基礎知識を織り交ぜながら、参加者が自分らしく自由に作品作りに取り組む時間とする。

②コンセプトアート：山元支援学校での出張ワークショップ(6月・8月)

学校を会場として、地域で生活する障害者と、支援学校在学中の生徒が、テーマを設けて一つの作品を共同制作する。制作の過程で、障害者や支援学校の生徒、保護者や教員が交流する時間も大切にしたい。

●参加者数:189名

属性	6/20	7/11	8/8	9/7	10/12	11/2	11/14	11/21	計
障害者	7	9	6	11	11	6	12	11	73
障害児	15	-	10	-	-	-	-	-	25
保護者	-	-	9	-	-	-	-	-	9
教員	17	-	10	-	-	-	-	-	27
一般	-	4	-	2	-	2	3	2	13
講師	1	1	1	1	1	1	1	2	9
支援スタッフ	3	3	6	5	3	3	6	4	33
	43	17	42	19	15	12	22	19	189



「みんなでつくるアート」ワークショップ

(ワークショップのテーマ) 支援学校で出張ワークショップ

- 日時：6月20日(火) 10:00~12:00
- 会場：宮城県山元支援学校 体育館

●参加者:43名

講師：今野裕結さん 当事者：7名 スタッフ：3名
 支援学校生徒：15名(小学部10名/中学部5名)
 支援学校教員：約17名

●ワークショップ内容

- ・コンセプトアートの紹介
- ・ワークショップ「廃プラスチック」を使った作品制作
- ・感想発表

●成果

- ・講師・学校との事前打ち合わせの上、支援学校でのワークショップを初開催することができた。
- ・準備～制作～片付けまでスムーズに進めることができた。
- ・慣れない場所/環境/メンバー/内容でWSすることは、お互いにより緊張感を持ってできた。

(ポラリスメンバー)

- ・ポラリスメンバーは、準備や片付けにも積極的に参加され、日頃のWSの成果を生かすことができた。
- ・支援学校の子どもたちのエネルギーに驚いていた様子。
- ・子どもたちの制作に、刺激を受け、「また行きたい!」と話される方が多かった。

(支援学校の生徒)

- ・支援学校の生徒は、若さ・パワー・エネルギーあふれる作品を作ることができた。
- ・慣れない素材や画材でも、迷いなく、楽しく、制作することができた。
- ・集中力が続かない子も、楽しく集中していて、その姿に支援学校の先生方も驚いていた様子。

●課題

- ・紙パレットは便利だが、軽いので風に飛ばされてしまうというデメリット。
- ・子ども一人に対し先生が一人入ると、テーブルが窮屈だった。
- ・メンバーと子どもたちの交流の時間があると良かった。
- ・今後、メンバーがサポートスタッフ的に子どもたちに関われるようになって理想。

<次回に向けて>

- ・WSの流れは本日の通りでOK。
- ・自己紹介や、感想発表など交流の時間を設けたい。
- ・保護者や先生にも参加してもらってOK。
- ・参加者が何名になるかによって、メンバーを何人連れていくか検討したい。

●感想(ポラリスメンバーより)

- ・勉強になった。楽しかった。
- ・自分達も制作したけど、子どもたちの絵は勢いがあった。小学校のときの先生に会えて嬉しかった。
- ・子どもたちと一緒にやれて楽しかった。初めての場所で緊張したけれど、楽しかった。また行きたい。
- ・支援学校の生徒さんの色塗りに圧倒された。いろんな色を混ぜたりいろんな絵を描いていたのがすごかった。
- ・ポラリスメンバーと一緒に黄色の花を描きました。良かったです。お手伝いも一生懸命頑張った。
- ・楽しかった。隣の子が手に色を塗って、びっくりした! また、参加したい。
- ・どういう絵を書けば良いか最初わからなくて、考えてしまったけれども、子どもたちが勢いよく描いていて、自由気ままに色々な色を混ぜ合わせて工夫して描いているなどと思った。自分は自分らしく描こうと思った。



初めて学校へ出張。子どもたちの、自由でエネルギー溢れる作品がたくさんできました。

河北新報 2023年6月21日朝刊



「みんなでつくるアート」の時間」ワークショップ

(ワークショップのテーマ)「コンセプトアートとは?」「自由制作」

●7月11日(火)10:00~12:00

●会場:ひろばポラリス

●参加者:17名

講師:今野裕結さん

当事者:10名(うち初参加者1名)

ポラリススタッフ:3名

一般:3名 取材(広報やまもと):1名

●ワークショップ内容:

- ・次回8月プログラム@支援学校の予告
- ・自由制作(画用紙に描画)
- ・ワークショップ「廃プラスチック」を使った作品制作
- ・作品発表

●成果

- ・地活利用者がワークショップ初参加。「絵心がない」と言いつつ、他のメンバーと一緒に、コンセプトアートに取り組むことができた。
- ・普段は自身の制作に没頭し、あまり集団でのWSに参加しない当事者も、講師や取材の方と交流しながら楽しくコンセプトアートに参加していた。
- ・広報やまもとの取材が入り、アートWSの意義を伝えることができた。
- ・素材が廃プラでも、画用紙でも、メンバーそれぞれの世界観は変わらずに表現されていることが、コンセプトアートをしてこそ分かった。どんな場面でも迷わず表現できるのは、ふだんからアート制作をしているからこそ。(講師からのコメント)

●課題

- ・参加声がかけていた地活利用者が1名いたが、会場の人数や雰囲気によって圧倒された様子で、参加する事ができなかった。

<12月のアート展に向けて>

- ・展示内容:作品(コンセプトアート、WS参加者の成果物、講師、支援学校)、WSのスライドショー

- ・支援学校生徒作品:小・中・高・あすなるの作品を展示したい
→学校に依頼し、展示作品をピックアップしたい。
(出品に際して詳細の指示が必要)

- ・広報:チラシを作成し、11月15日の町内全戸配布に合わせたい。

メディアへの周知はどうするか?(特集?イベントとして?)
インスタアカウントを作るのはどうか?

- ・集客について:こどもたちの呼び水は何か?
宮城教育大学の学生に声をかけたい。
今野先生としょうじこずえさんの名前も使って。
屋台を看板代わりに、会場外に常設したい。

- ・タイトル:「みんなでつくる やまのものとアート展」?
「山元」は入りたい。愛称「みなやま」はどうか。

- ・会期中はメンバーを当番制で受付係につけたい
→8月10日(木)10:00より、詳細の打ち合わせ。

アートで障がい者と地域がつながる

NPO法人ポラリスでワークショップ

NPO法人ポラリスが障がい者と地域との交流拠点として開設している「ひろばポラリス」で、先月11日、アートワークショップが開催されました。

この事業は今年4月からスタートし、今回で4回目。令和4年3月まで県立山元支援学校の教諭だった画家の今野裕結さんを講師に招き、ポラリスの利用者や一般の方10人が、アート制作に取り組みました。納豆のふたなどの廃プラスチックや和紙に描いた作品は、どれも感性豊かで力作揃い。今野さんは「色使いなど、個性あふれる作品ばかりで素晴らしい」と話しました。

廃プラスチックを利用した作品制作は、海洋プラスチック問題をコンセプトとするアートとして、山元支援学校と共に取り組んでいるもので、12月上旬につばめの杜ひだまりホールで展示会の開催が予定されています。



利用者の制作の様子を見守る今野さん(右から2人目)



納豆のふたを利用した作品

広報やまもと 2023年6月号



「みんなで作るアートの時間」ワークショップ

(ワークショップのテーマ)支援学校・夏休みのPTA親子行事で出張ワークショップ

●8月8日(火)10:00~12:00

●会場:宮城県山元支援学校 4階大会議室/4階視聴覚室/3階プレイルーム

●参加者:42名

講師:今野裕結さん 当事者:6名 ポラリススタッフ:4名 基幹相談支援センターやすらぎスタッフ:2名
支援学校生徒:10名(小学部5名/中学部5名) 保護者:9名 支援学校教員:10名

●ワークショップ内容:

<第一部:アートワークショップ>

- ・山元こぐまサロンの紹介
- ・コンセプトアートの紹介
- ・グループごとに自己紹介(5グループに分かれて)
- ・ワークショップ「廃プラスチック」を使った作品制作
- ・作品発表

<第二部:保護者懇談会/おたのしみ縁日>

(保護者チーム)

2グループに分かれ、ポラリス・やすらぎ・講師との顔合わせと情報交換。また地域資源や相談機関の紹介を行った。

(こどもたち)

PTAが準備してくださった「おたのしみ縁日」会場で、ポップコーンやわたあめ、的あてゲームに参加。またポラリスメンバーが運営のフォローとして参加した。

●成果

・支援学校の協力のもと、PTA親子行事として初開催することができた。

・PTAの担当保護者/教員と一緒に、事前打ち合わせから当日の運営まで協働して進めることができた。

・生徒も保護者も先生方も、ワークショップに楽しく、自分らしく参加することができていた。

・ポラリスメンバーは「お仕事」として、アートや縁日の準備やサポートについて役割意識を持って取り組むことができた。(初めての場でも臨機応変に動けるのは、日頃の活動の成果と感じられる。)

・出張ワークショップを今後も続けていきたいと答えるメンバーが複数名出てきた。

・学校やPTAの協力のもと、こどもたち向けの「おたのしみ縁日」ブースを設けることで、親子が別々に分かれ、保護者向けには懇談会の場をセッティングすることができ、お互いに情報交換をすることができた。

・今回ポラリスとしても初めてこども、保護者、先生と一緒にアートワークショップを楽しむことができ、学校在学中から地域とつながることができるように、少なからず働きかけることができた。今回の実践をもとに、今後も同様に、または新たな場所で、取り組んでいきたい。



●課題

・保護者懇談会のなかで、山元町外在住の保護者より、「山元以外の地域においてこのような学びの場がない」、という課題が挙げられていた。今後、このような活動をどのように周辺市町村に広めていくかが課題。

・ひろばポラリスのことが気になってはいたけれど、なかなか足を運べない保護者がいらした。→営業日や時間について、こちらから改めてお伝えした。

*保護者懇親会より(参加者からのコメント)

・本日のワークショップ、自分も久しぶりに筆を握り、楽しかった。こどももとても楽しんでた。

・将来のことを考え、在学中から余暇時間を地域につながるように、、、と考えているけれど、地元(亘理)にはポラリスのような活動はないので、今は自分でどうにか開拓し、地域団体とつながっている。

・高校3年までこどもが学校に通っている間は、親も山元町に通うけれど、自宅は亘理で生活拠点は岩沼寄りなので、卒業後は山元から遠のいてしまうと思う。そのときに、地域とつながる余暇活動について、自分で作っていくパワーもないし、どうしたら、、、と思う。

・理想としては、親の引率がなくても、自分の好きな活動を、気の合う友達どうしで、余暇活動できるようになってほしい。

・卒業後、ひきこもりにならないようにしてほしいな、と思っている。

・高校3年生の子を持つ親としては、今は進路のことが最大の心配ごと。

・ひろばポラリスの存在は気になっていたけれど、なかなか訪ねられずにいた。

・最近山元に引っ越してきたばかり。まだ、町内の資源のことがわからない。



廃プラスチックが、アート作品になる!?今野先生から、コンセプトアートの面白さを紹介してもらいました。



学校の先生や保護者のみなさんもこどもたちと一緒に、作品作りを楽しみました。



●感想(ポラリスメンバーより)

・こどもたちと一緒に絵を描くの頑張った。

・お茶だしを頑張りました。

・自己紹介をしました。堂々とお話できるように頑張りました。ポップコーンの袋詰めも頑張りました。

・わたあめづくり、初めて挑戦しました。

・初めての場所で、ちょっと疲れた。

・興味を持ったこどもたちに、アイパッドを触ってもらい自分のアート作品を紹介することができた。

・みんな楽しそうに参加してくれてたので、よかったと思う。また同じような機会があるといいと思う。

・これから、こどもたちと一緒に祭りができたらいいなと思う。

●その他

・今回の完成作品は、8月18日(金)に学校に回収に向う。



「みんなでつくるアートの日」ワークショップ

(ワークショップのテーマ)どきどき！和紙に！？チクチク！？縫ってみよう！

●9月7日(木)13:00~14:30

●会場:ひろばポラリス

●参加者:19名

講師:しょうじこずえさん

当事者:11名 (うち初参加1名)

ポラリススタッフ:5名 一般:2名

●ワークショップ内容:

- ・本日のワークショップの説明
準備物の説明、作業の進め方の説明、講師のデモ
- ・実践
 - ①えんぴつで和紙に下書き
 - ②刺繍糸を針に通してゆっくり縫っていく
*糸は6本でも、それより少ない本数でもOK。
*途中で糸を変えてもOK。
 - ③糸を結ぶ
- ・感想発表

●成果

・地域活動支援センター利用者1名が、ワークショップ初参加。講師の丁寧なサポートにより、家族の思い出話をしながら、自分のペースで進めることができていた。

・普段の活動で刺繍をしない当事者も、針と糸を手にとって進めることができ、当事者の新たな面を見ることができた。

・和紙や刺繍糸の質感を触って楽しむこともできた。視覚障害の方でも楽しめるかもしれないという可能性が見えた。

・スタッフも参加者の一人として、ワークショップに参加することができた。

・「刺繍は布にするもの」という固定概念をなくし、ゴールを目指すことなく、新たな素材で製作を楽しむという過程を体感することができた。

(講師より)

・参加者にとっては、初めての、やり慣れないワークショップであっても、抵抗感なく素直に、楽しんで取り組める姿勢に感謝。

・残り1回のワークショップと、12月の展示に向けて、和紙だからこそ面白い効果を考えていきたい。



刺繍の楽しさに目覚め、個展ができそうなほど、作品を仕上げた参加者もいました。

●課題

・年齢によっては、糸を通す作業が難しかった。
→講師のフォローや、縫いやすくなるような工夫(事前に紙に穴をあけておく、刺繍糸の本数を減らすなど)で、高齢の参加者も無理なく参加することができた。

・刺繍糸の扱いに慣れない場合は、毛糸を使ってみてもよいかも。

●感想

- ・小学生以来の、刺繍体験でした。
- ・(普段の刺繍と違う方法だったけれど)簡単だった。
- ・紙に針を刺すとき、硬くて、大変だった。
- ・布と違って、一度紙に穴を開けると、穴が元に戻らないのが、大変だった。

<12月のアート展に向けて>

*こずえさんより

・プロ作品展示コーナーについて、今野さんと一緒に、会場や展示内容についてのすり合わせができればよいと思う(11月21日はどうか?)

・アート展本番について:12月7日なら、アートワークショップに参加できるかも。



「みんなでつくるアートの時間」ワークショップ

(ワークショップのテーマ)アート展にむけて～展示の心得～

●10月12日(木)13:00～14:30

●会場:ひろばポラリス

●参加者:15名

講師:今野裕結さん

当事者:11名

ポラリススタッフ:3名

●ワークショップ内容:

- ・アート展にむけて ～コンセプトアートの作り方～
 - *作品を展示する準備…作品にマグネットを貼り付けよう
 - *展示のデモ…自由に作品を選んで、パネルに貼ってみよう
- ・自由制作
コンセプトアート、和紙への描画
- ・感想発表



●成果

・当事者2名が、コンセプトアートのデモに挑戦。

・地活利用者1名が、廃プラスチックを利用したコンセプトアートに挑戦した。「絵を書くのは小学校以来だから」と、とても不安そうだったが、講師や他の当事者からのサポートを受けて、何枚も作品作りを進めることができた。

・制作が2回目以降の当事者も、講師との対話を通じて、イキイキとコンセプトアートの制作を進めていた。

・5月から制作を進め、「自由」に取り組む中で、それぞれオリジナルの画風(色遣いや筆のタッチ)が生まれているように感じられる。

●課題

・12月の展示に向けて、展示内容や方法、作品点数について、講師や支援学校も含めて打ち合わせを進めていくことが必要。

●感想

- ・オリジナル模様を描きました。楽しかった。
- ・奈良の仏像の絵だけど、背景をどこかの国旗みたいにしてみました。
- ・自分のおうちの絵をかきました。
- ・秋といえば、、花のイメージでかきました。
- ・昔アニメに出てきた、空想の、青い犬を描いてみました。
- ・あんまり何も考えないで、描いてみました。
- ・憧れの、富士山を描きました。いつか登ってみたいな。
- ・枠に収めるのが難しいなと思いつつ、描きました。
- ・今日初めて描いてみました。お月様やお星様やうさぎさんに、見えるかな？



12月に行われるアート展に向け、展示のための下準備やデモ作業も、当事者自ら担当しました。



「みんなでつくるアートの日」ワークショップ

ワークショップのテーマ：和紙とハギレのコラボレーション！心の太陽を生み出そう！

●11月2日（木）13：00～14：30

●会場：ひろばポラリス

●参加者：12名

講師：しょうじこずえさん

当事者：6名（うち初参加1名）

ポラリススタッフ：3名 一般：2名

●ワークショップ内容：

- ・本日のワークショップの説明
テーマについてお話、作業の進め方の説明、講師のデモ
- ・実践
 - ①和紙に太陽の下書きをする
 - ②ハギレを切る
 - ③切ったハギレを、和紙に貼り付ける
- ・テーブルを歩き来し、おたがいに作った作品を見ながら感想発表

●成果

・布を選ぶことや、和紙に描く内容を決めるということがとてもスムーズにできていて、驚いた（講師より）
→ワークショップの回数を重ねる中で、周りを気にせず、新しいことにチャレンジする意欲が出てきていることの成果と思われる。

→講師の説明やデモが、当事者の目線やペースに合わせてじっくりと行われた成果とも感じられる。

・講師自身にとって、ポラリスでのWSがほっとする時間となっている（場の雰囲気や参加者のあたたかさ）。

・会話をすることが苦手な当事者も、制作した作品に自信を持って、作品を通して他者とコミュニケーションを取ることができた。

・講師も想定していない技法で、オリジナルの作品作りを次々と進める参加者が出てきて、講師やスタッフも驚いた。

・午前中の活動次第では、疲れが出てしまい、創作することが難しかった参加者もいたが、自分のできる作業を行うことで、その場を共有することができた。

・前回の刺繍ワークショップに継続して取り組まれている方もおられたことに、講師が感動していた。

・和紙の風合いを生かした展示の仕方について、スタッフが講師から、細かく教わることができた。



●課題

・一部の参加者は自己否定的であるが、そのような場面で「お上手ですよ！」と持ち上げるのではなく、また技術的なことを教えるのではなく、まずその気持ちに寄り添うこと、また日々のストレスから離れ、心をストレッチする時間にしてほしい（講師より）
・全体で発表する時間は設けたほうがよいだろう。

●感想

・こんなに楽しいと思わなかった。（一般）
・小さい作品を作るのは難しいけど、頑張って細かな表現で作ってみました。（当事者）



カラフルで素材も様々な「ハギレ」を使って、自分だけの「心の太陽（おてんとうさま）」を作りました。



「みんなで作るアートの時間」特別編

ワークショップのテーマ:蔵王自然の家出張ワークショップ・こけしの絵付け体験

●11月14日(火)13:00~14:30

●会場:ひろばポラリス

●参加者:22名

講師:半田佳之さん(蔵王自然の家職員)

当事者:12名

ポラリススタッフ:6名 一般:3名

●ワークショップ内容:

- ・本日のワークショップの説明
 - ①こけしについて(蔵王は「遠刈田系」です)
 - ②作業の進め方の説明
- ・実践
 - ①こけしに顔や体の模様を描く
 - ②乾いたら、ろうそくの口を塗る
 - ③布で拭きあげ、艶出させる
- ・スタッフより、素材となる木「みずき」についての紹介
- ・参加者と講師より感想発表



●成果

・「宿泊&自然体験@蔵王自然の家」に参加できなかった当事者のために、蔵王自然の家の職員の協力を得て、山元町での出張ワークショップを開催することができた。

・宿泊体験に参加することができなかった当事者5名が、初めて絵付け体験に参加できた。

・また、地域から一般参加者3名が参加することができた。

・すでに蔵王で絵付け体験をした当事者6名も、会場を分けて、制作の続きを行うことができた。

・会場には、絵付けの基本となる3つの色(赤・緑・黒)のほかに、カラフルな絵の具を準備することで、それぞれが自由に制作を進めることができた。

・会場となったひろばポラリスでは、講師に当事者のアート作品を見学していただく機会となった。

・(講師より)普段施設で実施しているこけしの絵付け体験は、あまり実施する機会がないので、自分にとっても貴重な機会となった。皆が見つけたこけしを見ると、それぞれ個性があって、どれが正解ということがない世界観がとても良いなと思った。

●感想

- ・みなさんの作品、素晴らしいです。自分もやってみて、楽しかった。
- ・目を描くのが難しかった。
- ・すごく楽しかった。
- ・洋風と和風が入り混じる時代をイメージして作りました。
- ・着物を着せました。髪の毛には分け目もつけました。
- ・(自分の大好きな)猫を描きました。
- ・髪の毛を青く塗ってみました。
- ・みんなの作品が並ぶと、色がすごく綺麗。こけし職人さんが見たら、何て言うかな?(一般)
- ・今の人たちの自由さに比べると、自分は本当に融通が効かなくて、と改めて思った。
- ・幼稚園児に戻った気持ちで楽しみました。「世界の国からこんにちは」のイメージです。(一般)



個性豊かなこけしたちが勢ぞろい!会場を明るくにぎやかに彩りました。



「みんなでつくるアートの時間」ワークショップ

ワークショップのテーマ:アート展に向けて～自由制作(制作のつづき、新作づくり)～

●11月21日(木)13:00～14:30

●場所:ひろばポラリス

●参加者:19名

講師:今野裕結さん

当事者:11名

ポラリススタッフ:4名 一般:2名

協力:しょうじこずえさん

●ワークショップ内容:

- ・やまのものとアート展に向けて
コンセプトアートの準備…マグネットを貼り付けよう
- ・自由制作
(和紙を使った制作、こけしの絵付け、廃プラを使った制作、ハギレを使った貼り絵など)
- ・感想発表(本日の作品の発表/1年間を振り返って)



●成果

・今までアート講師に教えていただいたWS内容をもとに、参加者が自由に、自分のやりたい作品作りを進めることができた。

・今までのワークショップ内容をコラボした手法が生まれた。(ハギレ×廃プラなど)

・講師自身も、他の講師が行なったWSを実践してみることができた。



お二人の先生方と1年間の感想を語り合ったり、制作途中の作品を仕上げたり、思い思いの時間を過ごしました。

●感想(1年間をふりかえって)

- ・ただ紙に描く、布に刺繍をする、だけではなく、先生方のおかげで、今までしたことのないアートをすることができて楽しかった。
- ・プラスチックに描くなんて最初はどうなるかと思ったけれど、やってみると次々と制作することができて楽しかった。
- ・納豆のふたとか、絵とか、色々できました。ありがとうございました。
- ・なかなか描くのが大変でした。
- ・学生のとき以来で、絵の具を使ったり、アートをしたのですごく楽しかった。
- ・アートの時間ってどんなことするんだろう?と思ったけれど、やみつきになって1年間参加することができた。初めて納豆のふたに描いたとき、感動した。なんでもできるんだなと思った。今では自宅でも、プラスチックに絵を描いたりしている。(一般参加)
- ・固定観念が強すぎる自分。一方で、メンバーが自由に制作している様子にびっくり。勉強させてもらった。(一般参加)

【講師より】

- ・ワークショップスタートのときに皆に伝えた「楽しむことが一番大切」という目的が達成できて、講師としても嬉しかった。常識にとらわれず、自由に制作するということを体験してもらえたと思う。(今野)
- ・いろんな素材で、アートは楽しめるということ、そしてアートを通して気持ちが癒されるということ。それを皆が体現してくれた。まっすぐな心で、真摯に制作に取り組んでいるのが伝わってきて、私自身も癒された。12月のアート展は自分も楽しみにしている。(しょうじ)
- ・参加者が、周りを気にしつつも、自分の世界を大切に、制作を進めている姿が良かった。(刈田)

宮城県立山元支援学校 教頭 菅原綾先生

夏季休業中のPTA会員研修事業として「親子でアートワークショップ」に展開することができた。保護者や児童・生徒が地域の障害者と一緒に「アートの時間」を過ごすことで、卒業後の余暇の過ごし方について具体的なイメージを持つきっかけができた。「アートの時間」の後の保護者対象「こぐまサロン」では、学卒後の本人たちのライフデザインを考える機会になったと思う。

本校を会場に児童・生徒と地域の当事者が一緒にアート活動を行ったことは、アートを接着剤にした「新たなつながり」をつくる機会となった。児童・生徒の潜在的才能を発掘・発揮し、魅力的な学校づくりを発信することで共生社会への一端を担うことができた。



今野裕結さん(アーティスト)

4日間でワークショップ参加者含めて219人を動員できたことは大きな成果。美術館やギャラリー展示でもこの日数でここまで動員できることは数少ない。アートは自分とは関係のないもので苦手なものではなく、身近にあるもので楽しむものという方向性にもっていくことができた。本事業のアート展のように地域と一体になり、かつプロも交えるなどして地域の枠を超えて人を呼ぶプロジェクトが増えるとよい。



しょうじこずえさん(アーティスト)



普段から創作活動をされているメンバーさんや地域の皆さんに向けて、これまで体験したことのないような技法や材料を扱い、創作することの楽しさや世界が少しでも広がってくれば良いなどユーモア溢れるワークショップを目標に努めた。ご参加下さった皆さんの反応は、初めての事で戸惑いを見せつつ積極的に手を動かしチャレンジされている姿がとても印象的であった。

中には、これがきっかけで新しい作品を生み出された方もおられ、お会いする度に嬉しそうに新作を見せて下さる事がとても嬉しかった。

アート展では地域の方々を中心に各方面から足を運んで頂き、今回の活動を幅広い方々へ知って頂けた貴重な機会だったと感じている。このような機会が今後も継続して行われることを願っている。

刈田路代さん(NPO法人ポラリス・アートスタッフ)

当事者や支援学校の生徒がひろばや支援学校という一つの空間の中で、心から安心して参加者の方々と一緒にアート活動を楽しめた様子が見てとれた。講師のお二人が一人ひとりの表現をととても大事にしてくださり、のびのびとした作品づくりに導いてもらえたと思う。地域の方々と共に、アートを楽しみ、描き終えた後お互いに見せ合ったり、感想を述べ合ったり、交流できたこともメンバーや生徒にとっての幸せな時間だったと感じる。



3. そうだ！たいそうに行こう



前年度までの実践研究を続ける中で作られた関係団体との連携により、本年は町が社会教育施設を活用して開催している生涯学習プログラムに参加して、地域住民と一緒に体操を楽しむ。町内の資源を利用して当事者が余暇活動を行うことを実践するほか、彼らと活動を共にする中で、地域の人たちに障害者への理解が広がることを目指した。

- 令和5年6月～12月のなかで、毎月1～2回程度 合計10回
- 会場：ふるさとおもだか館
- 講師：伊藤順子さん
- 協力：坂元元気アップ・フレッシュダンベル

●参加者数：179名

活動日	参加団体	障害者	一般	講師	支援スタッフ	計
5/30	フレッシュDB	7	6	1	1	15
6/1	元気アップ	8	10	1	2	21
6/15	元気アップ	9	12	1	2	24
7/21	元気アップ	9	10	1	2	22
8/3	元気アップ	7	11	1	3	22
8/29	フレッシュDB	4	8	1	1	14
9/26	フレッシュDB	4	8	1	1	14
10/24	フレッシュDB	6	9	1	1	17
11/2	元気アップ	4	5	1	2	12
11/28	フレッシュDB	7	8	1	2	18
		65	87	10	17	179

●感想(参加者より)

・ダンベル体操などは動きが覚えられないので先生の動きを見ながら体操しました。色々なゲームなどで体を動かし楽しく活動できました。

・ダンベル体操はふだん使わない筋肉を使って運動ができました。元気アップ体操は、ダンベルの他にゲームをして楽しく体を動かすことができました。あまり筋肉を使わないのでキツかったです。

・フレッシュダンベルではダンベルを使って体を動かしたり地域の人と輪になって、しりとりをやりました。元気アップ体操ではゲームをしたりサザエさん体操もしました。色々な人と交流をしたり、自分から話かけることができました。



ボールやマットなど、色々な道具を使ったレクリエーションゲームも楽しみました。

●内容：

・町に登録している生涯学習サークルであり、坂元地区の「ふるさとおもだか館」を拠点に活動されている2つの団体「坂元元気アップ」・「フレッシュダンベル」の活動に、当事者と支援者その他希望者が、月1回程度参加させていただいた。

・講師やサークル会員に教わりながら、全身を動かすストレッチや、セラバンドや玄米ダンベルを用いた体操、レクリエーションゲーム等に参加了。

●成果

・障害の程度や年齢にかかわらず、だれもが参加しやすいメニューを教わることで、「体操をすると気持ちが良い」、「体が軽くなる」など、当事者自身がその効果を感じることができていた。

・個々の特性や体力によっては、講師やサークル会員と全く同じ活動をするのが難しい部分もあったが、それぞれの特性を尊重して頂きながら1年間プログラムを継続することができた。

・サークル会員の皆さんが温かく迎え入れてくださることで、体操だけではなく、地域の方との交流も楽しむことができた。地域の方への挨拶も、だんだん自信を持って行えるようになった。

・継続して活動する中で、プログラム外で開催されるお互いの発表会に招待したり、参加したりするなど、各サークルとの双方向の関係づくりになった。





成果報告会では、サークル会員さんも応援に駆けつけてくださいました。



●課題からの気づき (コーディネーター 田口)

・これまで、ボラリスが企画したプログラムに地域の方々が参加する形だったが、このプログラムは、障害者が町のプログラムに参加して、これまで交流したこともない同士で理解を深めていくことができるものかを検証しながら実践することができた。

・はじめは、上手く挨拶できなかつたり、途中で休んでしまう障害者について、理解が難しかった一般の方とも、引率職員や講師が対話を重ねて継続するうちに、理解してもらえるようになり、この経験は、コーディネートする立場として、企画側の学びも大きかった。

・文科省実践研究終了後にも無理なく障害者が地域で生涯学習に参加できる方法の一つになればと考える。

●1年を振り返って

伊藤順子さん（講師/民生委員）

・障害者が地域へ出かけ、地域サークルに参加するというアウトリーチの形は初めてだったが、サークル会員さんに快く受け入れていただいたことで、楽しく活動することができた。

・体操は、言葉のいらないコミュニケーション。障害者にとってもそれがよかったと思う。就労訓練だけでは得られない、サークル会員や仲間などとの連帯感や達成感、爽快感を感じていただけたのではと思う。それが当事者の普段の就労訓練にも生かされ、よりよい生活につながっていったら良いなと感じている。

・地域のサークル会員は高齢者ばかりだが、彼らにとっても、年を重ねてひとつずつできなくなることが増えていくという体験が、当事者理解につながっていたのではと思う。

4. うたカフェ

ユニバーサル学習の講師「どらごえサークル」と当事者が、「みんなのアート展」での発表に向け、1年間継続して合唱に取り組んだ。従来のプログラムでは、音楽を聴く側であった当事者が、講師の協力を得ながら演奏する側となることで、表現することや協働することの楽しさを体験した。

- 日程:令和5年6月～11月のなかで、毎月1回程度 合計5回実施
- 場所:ひろばボラリス・つばめの杜ひだまりホール(リハーサル室)
- 講師:どらごえサークル

音楽を通して平和の大切さを伝える活動をしている、町内の合唱サークル。毎回数名のメンバーを派遣し、合唱の講師となるほか、アート展での発表内容も共創した。

*10月には、南三陸町地域活動支援センターの利用者・スタッフが視察に来られた。参加者多数となったため、会場をひだまりホールに変更し、歌を通して交流する機会が持てた。

●参加者数：154名

属性	6/29	7/27	8/24	10/26	11/30	計
障害者	11	12	10	29	11	73
保護者	2	-	-	3	-	5
一般	1	1	2	1	-	5
ボランティア	-	2	-	-	-	2
講師	7	8	3	12	8	38
関係機関	-	-	-	8	-	8
行政	-	-	-	1	-	1
支援スタッフ	4	5	3	6	4	22
	25	28	18	60	23	154



毎回事前打ち合わせの時間をつくっていただき、趣旨を共有して実践することができました。





「うたカフェ」

●6月29日(木)13:00~14:30

●会場:ひろばポラリス

●参加者:計25名

講師:どらごえ 7名 当事者:11名

保護者:2名 一般:1名 ポラリススタッフ:4名

●内容:

- ・季節の歌をうたう 全13曲
(手のひらを太陽に・幸せなら手を叩こう・かえるの歌・てんとう虫のサンバ・365日の紙飛行機・川の流れるように・浜辺の歌・ひとりぼっちのあなたへ・薔薇が咲いた・七夕さま・ほたる・上を向いて歩こう・でんでん虫)
- ・講師の自己紹介
- ・12月の成果発表会に向けた歌の練習(ひとりぼっちのあなたへ)
- ・感想発表/来月のうたのリクエスト



参加者どうして手作りした歌集のなかから、自分が歌いたい歌を選びます。

●成果

- ・歌集の準備、会場設営、歌のセレクト、受付などを、メンバーが協力して行うことができた。
- ・初めてのプログラム、初めて会う人たち同士でも、楽しく歌うことができた。
- ・講師のリードにより、歌だけでなく、振り付けも合わせて楽しむことができた。
- ・歌のリクエストコーナーでは、6名の当事者が、自分の歌いたい歌を講師にリクエストすることができた(普段、言葉での表現が苦手な当事者も、マイクを向けられた際に言葉を発することができていた)。
- ・フリースペース「ひろばポラリス」からつながった当事者も、初めてプログラムに参加することができた。
- ・心配された会場のキャパは、20名程度の人数であれば、音響も含めて大丈夫なことがわかった。
- ・参加者にとって、リラックスできる、良い時間だったと思う。

●課題/次回に向けて

- ・座席は、当事者と講師、その他参加者が散らばるように検討したい
- ・「どらごえの歌がもっと聞きたい」という声もあったので、次回はイベントの告知をしても良いのでは。
- ・8月11日、坂元のイベント「あそび隊」で何か出店しては?
- ・参加者はずっと座ったままの姿勢だったので、手足の振り付けやダンスがあってもよいのでは。
- ・歌によっては、難しい歌詞もあるが、歌詞だけの朗読や、歌詞の意味を考えてみるのも良い。
- ・マラカスやタンバリンなど鳴り物があると盛り上がる。

●感想

- (当事者)
 - ・楽しかった。
 - ・知っている曲が多くて歌いやすかった。
- (家族/一般)
 - ・自分達がたくさん歌ったなあ。どらごえの皆さんの歌も聴きたいな。
 - ・久しぶりに歌えてよかったです。
 - ・初めてのプログラムとは思えないくらいのもたまりですごいなと思いました。
- (講師)
 - ・声が出ないかなと心配したけれど、みんな大きな声で歌えていたのでよかったです。
 - ・みんなと歌えることは幸せだなと感じた。これからも歌の力を借りて、前を向いていきたい。
 - ・あつという間の時間。みんなと楽しく過ごせてよかったです。また来たい。



歌がお好きな地域からの参加者も一緒に楽しみました。



「うたカフェ」

●7月27日(木)13:00~14:30

●会場:ひろばポラリス

●参加者:計25名

講師:どらごえ 8名 当事者:12名 学生:1名
ポラリススタッフ:5名 見学者:1名

●内容:

・季節の歌をうたう 全16曲
(手のひらを太陽に・青い山脈・海・夏は来ぬ・夏の思い出・さんぽ・見上げてごらん夜の星を・野に咲く花のように・サモア島のうた・365日の紙飛行機・浜辺の歌・ほたるこい・少年時代・野に咲く花のように・春よ来い・今日の日をさようなら)

- ・スイカを使ったリクエストゲーム
- ・オカリナ演奏
- ・12月の成果発表会に向けた歌の練習(ひとりぼっちのあなたへ)★振りつけの練習
- ・よさこいを踊ろう! コーナー
- ・ハワイアンダンス
- ・屋台で乾杯! コーナー

●成果

・歌集の準備、会場設営、屋台設営とサービス、受付などを、メンバーが協力して行うことができた。

・車座となり、講師と参加者がミックスで着席すること、また屋台で交流することで、前回よりも皆の距離が近くなったように感じられた。

・リクエストコーナーでは、講師のアイデアにより皆がゲーム感覚でリクエストできるような工夫がなされた。

・歌の他、ダンスや楽器、飲み物のサービスなど、それぞれが好きなことや得意なことを活かして、自分らしく参加する事が出来た。

・体調が不安定で普段通所が難しい当事者が、講師のギタリストと交流しながら、自分の得意なギターで楽しく参加することが出来た。

・講師も、楽器や伝統舞踊など様々な特技を披露してくださり、皆にとって楽しい学びの場となった。

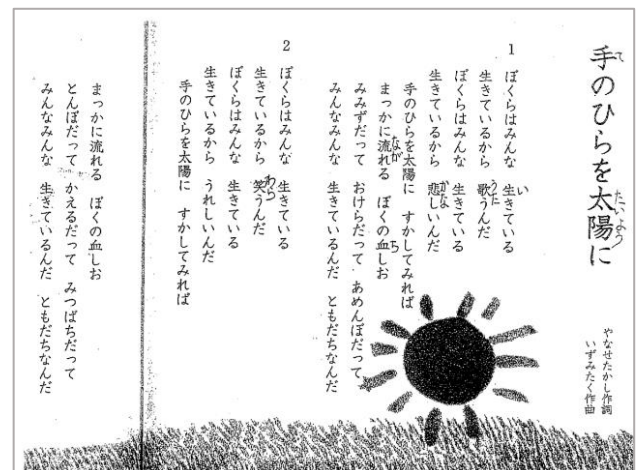
●課題/次回に向けて

・とっさにマイクを向けられてもリクエストするのが難しい方もいるので、事前にリクエスト受け付けてみては?

・司会も、当事者持ち回りでやってみるのがよいのでは?



スイカゲーム!レクリエーションを通して、参加者どうして交流の時間。



どこからともなく、フラダンスが始まりました。



「うたカフェ」

●8月24日(木)13:00~14:30

●会場:ひろばポラリス

●参加者:計18名

講師:どらごえ 3名

当座者:10名 (うち初参加1名)

ポラリススタッフ:3名 一般:2名

●内容:

・季節の歌や思い出の歌をうたう 全19曲
 (手のひらを太陽に・海・大漁節・みかんの花咲く丘・
 バラが咲いた・ドレミのうた・たなぼたさま・贈る言
 葉・青い山脈・見上げてごらん夜の星を・さんぽ・青
 い空は・戦争を知らない子どもたちへ・青い空は・大
 きな栗の木の下で・翼をください・虫のこえ・とんぼ
 のメガネ・今日の日はさようなら)

・地区の盆踊りをおどろう! コーナー
 (高瀬地区編・山下地区編)

・12月の成果発表会に向けた歌の練習
 (ひとりぼっちのあなたへ)★振りつけの練習



ひとり1曲ずつ歌を選んで、マイク片手に歌うことに、みんながだんだん慣れてきました。

●成果

・歌集の準備、会場設営、屋台設営とサービス、受付などを、メンバーが協力して行うことができた。

・前回の振り返りをもとに、事前に一人一曲リクエストを選んでもらうことによって、皆が自分の選んだ歌を、マイクを持って歌うことができた。

・ふだんは言葉でのコミュニケーションが難しい当事者も、声を出して、自分の選んだ歌を歌うことができた。

・地域活動支援センターの利用者1名が、初めてプログラムに参加することができた。

・民生委員1名が、初めて一般参加された。

・盆踊りコーナーでは、同じ地区に住む参加者同士がそれぞれの盆踊りを楽しむことができた。

・歌をきっかけとして、思い出の映画やアニメなどの会話で盛り上がり、多年代で交流することができた。

・講師(元学校教師)が、近所に住む、元教え子である当事者に気付いて声をかけ、気にかけてくれる様子があった。



自分の住む地区の盆踊りを紹介したあと、みんなで輪になって踊りました。

●課題/次回に向けて

・9月はお休み、10月以降は12月の発表会に向けて準備をしていきたい。15分程度の発表時間、曲目は「ひとりぼっちのあなたへ」、「手のひらを太陽に」、「365日の紙飛行機」の3曲で進めたい。

・10月のうた
 まっかな秋・あの素晴らしい愛をもう一度・世界に一つだけの花・どんぐりころころ・森のくまさん・ビリーブ・赤とんぼ・小さい秋



「うたカフェ」

～南三陸町地域活動支援センターとの楽しむ&まなぶ交流会～

●2023年10月26日(木) 12:00～15:00

●会場：ひだまりホール 会議室5 リハーサル室

●参加者:60名

当事者12名 スタッフ6 保護者3
(南三陸町):17名(当事者10+スタッフ7)
一般参加者:1名(初)
山元町生涯学習課:1名
基幹相談支援センター:1名
講師:12名(どらごえサークル)

●内容:

11:00 会場準備
12:00 昼食(会議室5)
13:00 うたカフェスタート(リハーサル室)
*自己紹介(講師/山元チーム/南三陸チーム)
*季節の歌や好きな歌をうたう・踊る 全15曲
(ハレルヤ・手のひらを太陽に・幸せなら手をたたこう・いい日旅立ち・野に咲く花のように
見上げてごらん夜の星を・北国の春・ビリーブ・
この町で・小さい秋・まっかな秋・母さんの歌・
りんごのうた・ひとりぼっちのあなたへ)

14:40 片付け・南三陸町の方々の見送り
15:00 会場片付け・開催



南三陸町の地域活動支援センターの皆さんがリフレッシュのお出かけ行事で、山元町での生涯学習の様子を見学に来られた。障害のある人もない人も共に一緒に歌を歌ったりアートワークショップなど、文化・芸術を通じた交流の輪を広げた。宮城県内各地に障害者の文化・芸術活動や生涯学習に取り組むことの価値を広めていく事例として実践した。

●成果

・視察受け入れに関連し、いつもの会場(ひろばポラリス)からひだまりホールに変更して初めての開催。当事者にとっては普段から他のプログラムで使い慣れた会場なので、準備から片付けまで当事者が協力してスムーズに行うことができた。

・地域からの一般参加者が、民生委員からの勧めで、初めて参加することができた。

・リクエストコーナーではポラリスメンバー(7名)も、初参加された見学者の方(3名)も、迷いながらも自分で曲を決めて、マイクを持って歌うことができた。

・山元の地活利用者1名が、いつもとは違う会場であったが、現地集合/解散で参加することができ、準備、片付けや昼食も、他の当事者と一緒に活動することができた。

・講師の進行のもと、南三陸や山元の「美味しいもの」の話題で、交流の時間を持つことができた。

・南三陸町地域活動支援センターのスタッフのほか、南三陸町役場職員にも、地域の中で学びや余暇の活動を行う様子を見ていただくことができた。

・集団活動が苦手な当事者は、別室で自分の好きな活動(アート活動、休憩など)をして過ごすことができた。また、アート活動を通して、見学者の方と交流する時間を持つことができた。

●課題/次回に向けて

・見学に来られた皆さんの中には、長距離移動や慣れない場所、集団活動の中で疲れを感じられた方もいた様子。
→別室で自由に休憩できるスペースを設けることで、見学者の方々も最後まで参加することができた。

・12月の成果報告会に向けて、曲目などを検討していく。



アートが得意な当事者のライブアートコーナーも設け、アートを通しての交流もできました。



「うたカフェ」

●2023年11月30日(木)13:00~14:00

●会場:ひろばポラリス

- 参加者:23名
当事者:11名
スタッフ:4名
講師:8名(どらごえサークル)

- 内容
 - ・1年間の活動の振り返り -歌集を見ながら、歌ったうたを思い出そう-
 - ・思い出の歌をもう一度うたおう
(手のひらを太陽に・川の流れるように・少年時代・薔薇が咲いた・てんとう虫のサンバ・世界に一つだけの花)
 - ・12月の成果報告会に向けたリハーサル
(幸せなら手を叩こう・ひとりぼっちのあなたへ)

- 成果
 - ・初めて活動に参加されたどらごえサークルの方も数名いらしたが、障害のある人との活動の様子(体調の変化や集中力、体力などについて)ありのままの活動の様子を見ることができた。

- ・歌集を見ながら、自分が歌った歌を思い出したり、他の参加者のヘルプをもらいながら歌うことができた。
- ・成果報告会に向けて、発表担当の当事者と講師が主体的にリハーサルを進めることができた。

- (感想)
- ・みんなが分かる歌を、みんなと一緒に歌うことができ楽しかった。
 - ・歌は得意ではないけれど、楽しく参加できた。



④1 ひとりぼっちのあなたへ
詞曲) 吉田 和子

※だから、もう泣かないで笑って
ここへ走っておいで
あなたの人生はこれからさ
始まったばかりさ

1 かけがえない愛をなくして
傷ついたあなた
愛する喜びと
気がついたはず
※くり返し

2 たったひとつの夢をなくして
傷ついたあなた
人は生きてゆく中で 何かを
見つけてゆくものです
※くり返し

3 なぜか涙もなく悲しいとき
ひとりでも
淋しさ 悲しみなんて
少しも消えはしないのです
※くり返し

●1年間を振り返って 森光子さん(講師)

・3年間通して講師として関わった。1年目はどらごえの発表を聞いていただく一方通行の発表だった。2年目は皆さんと一緒に歌うことができた。

最初はどんなふうに活動できるかな、と不安だったけれど、回を重ねる中で障害のある参加者とも楽しく関わることができるようになり、参加者の声も次第に大きく出るようになり、嬉しかった。

そして今年、3年目は一緒に歌うだけでなく踊ったり、歌う曲を選んだりなど、主体的に参加されるようになった。今年の発表はすばらしいものになったと思う。

・一緒に活動をすることで、私たちも勉強になった。障害のある方が、疲れやすかったり、集中力が続かなかつたりというのは、どらごえメンバーも全く同じこと。そんなことに気付くことができた。

・どらごえメンバーの中には、ポラリスの活動についてまだよく分かっていない人もいます。けれども、「まず参加してみよう！」と声がけしている。そうすれば、一緒に楽しめることができるし、「わたしもあなたも、みんな同じ」ということがわかるのではないかな。

今後も、どらごえのイベント等に当事者をお誘いしたり、ポラリスのイベントに参加したりするなどして、交流を続けていきたい。

5. 宿泊 & 自然体験 @ 宮城県蔵王自然の家

- これまでの実践研究を県の立場から伴走されてきた宮城県生涯学習課との共創で、初めて山元町を飛び出して、蔵王町にある県立の施設を活用して実践研究を行った。
- 普段外出や家族以外の方と宿泊することの少ない当事者が、蔵王の環境を生かした自然体験・宿泊体験を行うことで、どのような価値や変化を生むのかを検証した。
- 宮城県との共創により、大学生ボランティアも活用しながら、県職員や大学生にも、障害者について理解を深めてもらい、県立の施設においても今後障害者の生涯学習が進められる機会を設けた。

●共催：宮城県生涯学習課

●日時：令和5年9月28日(木)～29日(金)

●場所：宮城県蔵王自然の家

●参加者：24名

当事者：9名

ボランティア：学生2名、保護者1名、バスドライバー1名

宮城県庁生涯学習課 平井美江先生

講師：5名(県社会教育主事)

ポラリススタッフ：5名

●スケジュール

9月28日(木)

09:45 ポラリス出発
 11:15 自然の家到着・出会いのつどい
 12:00 昼食
 13:15 プログラム①「ニジマスつかみ」
 14:30 ベッドメイキング
 15:00 プログラム②「こけしの絵付け」
 16:30 キャンドルファイヤーの準備
 17:30 夕食
 18:30 プログラム③「キャンドルファイヤー」
 20:00 入浴
 22:00 就寝

9月29日(金)

06:30 起床・ラジオ体操
 07:30 朝食
 08:30 部屋掃除・荷物まとめ
 09:30 プログラム④自然散策
 (森林チーム/ことりハウスチーム)
 11:30 コーヒーブレイク
 12:00 昼食
 12:30 アンケート記入
 13:00 自然の家出発
 13:30 蔵王ハートランド見学
 15:30 ポラリス到着・解散



スタッフやボランティア、みんなの力を借りて、人生で初めて挑戦することにも果敢にチャレンジしました！

●成果

(当事者が楽しく、主体的に学ぶ)

・学びやすい／楽しい／参加しやすい内容か？
→「たのしい」82% 「わかった」12% 「びっくり」6% 「こまった」0% 「むずかしい」0%
(参加者アンケートより:有効回答17)

・当事者がサロン運営に参加できたか？
→参加者9名全員が、準備／片付け等に参加できた。

(新しいつながりを作る)

・新たに蔵王自然の家の職員5名が、プログラム講師を担当された。

・宮城県庁生涯学習課の職員1名が共催者として、当日のサポートをされた。

・学生2名が、新たに引率ボランティアをされた。

・普段ボランティアとして活動協力されている地域住民1名が、バスドライバー／引率ボランティアとして参加された。

(その他)

・普段生活する場所を離れて、大自然の中で活動することで、当事者のいつもの様子とは違う表情が見れた。(初めてのことにドキドキ、自然の中で解放感のある笑顔、新しいことができたときの嬉しさ…)

・蔵王自然の家の職員や学生等ボランティアにも、当事者と一緒に活動していただくことで、当事者について知っていただくきっかけとなった。

・施設職員やボランティアの協力により、参加者それぞれの体調やスキルに合わせて、プログラムの内容を柔軟に変更しながら開催することができた。

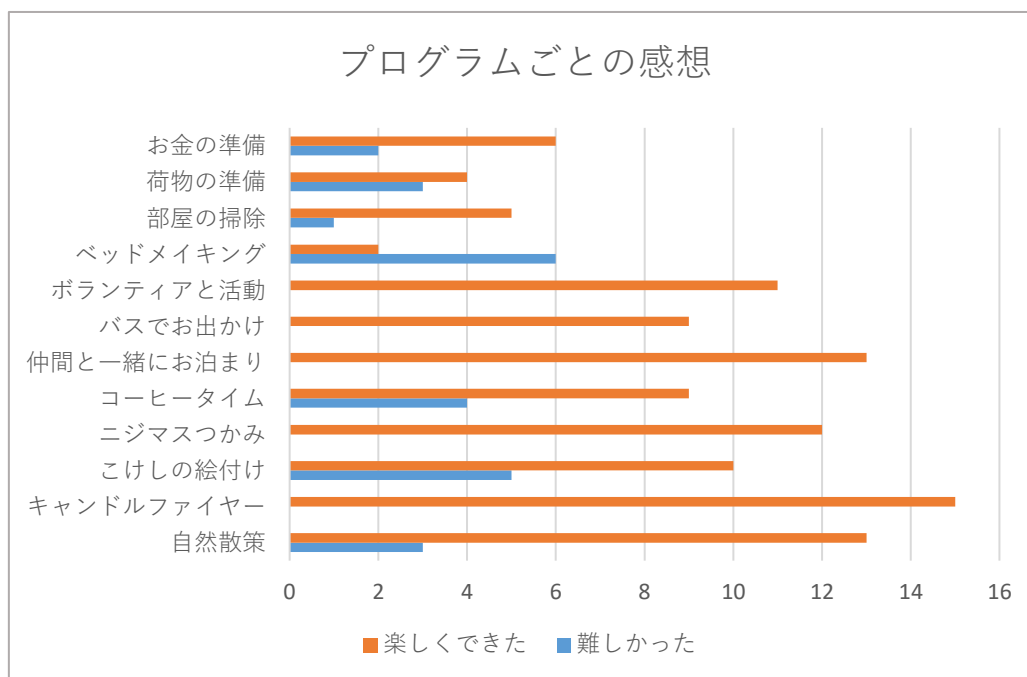
・天候不良により、プログラムの一部を変更したが、それが結果的にユニバーサルな内容となり、怪我や体調不良等を防ぐことにつながった。

例)ニジマスつかみの場所を、溪流から野外炊飯場に変更。
野外でのキャンプファイヤーから、室内でのキャンドルファイヤーに変更。

・蔵王自然の家の職員の方々は、学校卒業後の成人した障害者への対応について、「どこからどこまでできるか分からない」、「自尊心を傷つけないように」、「成功体験を積んでもらえるように」などの点で、心配されていた。→個々の特性について、その場面ごとにボラリススタッフからお伝えし、良い連携ができた。

●課題

・こけしの「絵付け体験」では、こけしの伝統的な3色の色使いで体験を楽しに行った。
体験しての所感として、当事者が普段行っているような、自由な色や手法で創作活動ができるように、こちらからカラフルな画材を持参すれば、より自分らしさを発揮できたと思われる。



●感想

【参加者】

・自分で捕まえたニジマスをその場で焼いてもらい実食でき、おいしかったです(40代男性:高次脳機能障害)
・全て良かったです。ニジマスつかみ取りが難しかったし、「ことりはうす」まで急な上り下りが腰の痛みや足の疲れなどあり、大変ではありました。(79歳男性:精神障害)

・ニジマスつかみは案外早くつかめて、本人も驚いている。雨が降ってきてキャンプファイヤーができなくなり、室内でキャンドルファイヤーをやった。思い出に残った。自然散策が楽しかった。行きは山道で、帰りはみんな疲れたので舗装された道を歩いた。疲れたけど、楽しかった。(70歳男性:精神障害)

・ニジマスつかみ取りが楽しかった。あとは生き物に感謝のために「ありがとう」ということがわかった。(30代男性:発達障害)

・ニジマス取りでちょっと苦戦し難しかった。こけしの絵付けは目がうまく描けなかった。ベッドメイキングはやり方があって、同室のスタッフに聞きながら布団をたたんだ。(40代男性:発達障害)

・こけしの絵付け、楽しかった。ニジマスつかみどりしました。美味しかったです。(50代女性:知的障害)

・ニジマスつかみ難しかったけど、楽しかった。そしてとてもおいしかったです。(50代男性:知的障害)

・ニジマスつかみ楽しかった。(60代男性:知的障害)

・こけしの絵付けが楽しかった。(40歳女性:知的障害)



2日目は晴天に恵まれ、絶好のハイキング日和となりました。

・はじめてのニジマスの体験、こけしの絵付けが楽しかったです。

・ニジマスのつかみ取りでは、ボランティアさんにアドバイスを受けて、スムーズに両手で掴むことができましたが、ニジマスを気絶させるために角にぶつけることができなくて悩みました。ごめんなさいと言う気持ちで美味しく食べてしまいました。こけしはできると思っていたら難しかったです。(保護者)

【引率協力者】

・フォークダンスが楽しかった。こけしの絵付けが難しかった。みんなとお話してきてよかったのと見守りができたかな？(60代男性 地域ボランティア)

・全てが初めての体験で、ニジマスから生命について、こけしの絵付けで皆さんの個性・感性を直に触れることができた。そして1泊2日という普段より長い時間を一緒に過ごすことで、今まで以上に皆さんの感情を知ることができたと思う。すべてが自分の成長につながる経験となったと心から思う。初日～前日は1泊2日が少し長いと感じたが、今はもう終わりかと思うほど楽しい時間を過ごすことができた。(20代男子大学生)

・普段は子供たち・親子の行事に対してのボランティアが中心だったので、どのように関わっていけば良いのか不安がありました。しかし、参加者さんはとても気さくで優しく、初対面の私にもたくさん接してくださいました。また、スタッフさんと参加者さんの関わり方を見ていく中で、自分自身も支援の方法の勉強になりました。とても貴重な体験を学びありがとうございました。(20代女子大学院生)

・ニジマスの命をいただくことで、普段の食べ物に対する感謝の気持ちがより深まりました。(ボラリススタッフ)

【企画実施者】

・大自然の中で、のびのび活動することで、誰もがリラックスでき、楽しい気持ちで過ごすことができよかったです。普段できないこと、心配なことも、皆さんチャレンジをし、大きな達成感を得られていて、素敵な表情も見られてよかったです。(宮城県生涯学習課 平井先生)

・山元を初めてとび出して、町外の施設で実施した。無事に1泊2日を終えることができ感謝。

蔵王の先生方、学生さん、ボランティアさんら普段当事者と接する機会のない方々にとって、直接会って、一緒に活動することが、当事者理解の第一歩につながることを再確認できた。(コーディネーター 引地)

・何でもやってみようという参加者の様子が見られた。これまでの様々な体験や学びの積み重ねにより得ることができたのだなあととても嬉しくなった。

引率スタッフの頑張りや、留守番スタッフの協力、県の担当課の方々、大学生、ボランティアさんが思いを一つにして協力して下さった成果だと実感しています。感謝の気持ちでいっぱいです。(コーディネーター 田口)



品堀 学(就労継続支援B型事業所ポラリス)

・普段生活する場所を離れて、大自然の中で活動することで、当事者のいつもの様子とは違う表情が見れた。
(初めてのことにドキドキ、自然の中で解放感のある笑顔、新しいことができたときの嬉しさ…)

・本事業が始まる以前、当事者にとっては「勉強」とは苦手なもの、抵抗感のあるものという方がほとんどであった。しかし、3年間のユニバーサルな学びのプログラムを通じて、当事者も「学び」にポジティブな気持ちで参加することができるようになった。

ふだんの就労訓練だけでは得られない地域との関わりや、当事者の生活場面に近い学びが、個々に成長する機会になったのではと思う。



ベッドメイキングや部屋の掃除は、自然の家での宿泊ならではの体験でした。



6. ICT体験倶楽部

引地奈美

(ポラリススタッフ/コーディネーター)

・ユニバーサル学習やアート展、成果報告会では、引きこもりがちであり、自宅リハビリ中である青年に動画撮影と編集作業をお願いし、合計5本の活動紹介動画をつくることができた。

・就労訓練に参加している当事者が、SNSで本プログラムの情報発信をしたり、成果報告会では司会進行用のスライドを編集するなど、PCやスマートフォンを用いながら、個々のスキルを活かして活動に取り組むことができた。



令和5年度 山元こぐまサロン ユニバーサルな学びの場① 保健師さんに聞いてみよう！からたのこと・健康のこと



令和5年度 山元こぐまサロン ユニバーサルな学びの場② 「もっと好きになる みやぎ・やまもと」

完成した動画は、youtube「ポラリスチャンネル」で公開中！

成果報告会



みんなで作る・やまのよとのアート展 山元こぐまサロン成果報告会2023

私たちボラリスは「障害のある人もない人も共に素敵に生き、素敵にはたらく」ということを目指して活動しております。そのために「はたらく」ことに加えて、「楽しく学ぶ」ということを大切にしています。東日本大震災から12年が経ちましたが、震災を経験し、私たちボラリスがこれからも皆さんと取り組むべきことは、災害がまた起きた時、障害のある方ももしも一人で道を歩いている、その時近くにいた人に「助けてください」と言えたり、互いに助け合うことができるように、普段から立場を超えてお話ししたり、学び合う機会をどんどん作っていくことではないかと考えております。そして、障害のある人もない人も支え合って、共に生きていける、しなやかで優しい文化のある山元町になったらいいなと思っています。これからも皆さんにお力を貸していただきながら、そういった機会を作っていけたら、と思います。どうぞよろしくお願いいたします。

NPO法人ボラリス 代表理事 田口ひろみ
(山元こぐまサロン コーディネーター)

実施：山元町
特定非営利活動法人ボラリス
協力：宮城県
山元町 高齢相談支援センターやすらぎ
東北福祉大学
ボラリス当事者会
ボラリス保護者の会
宮城県立山元支援学校
多野裕祐
しょうじこぎえ
どうぐさサークル
ホップステップ
坂元元気アップ
フレッシュダンベル
Music Mail
三石寛生

その他、地域のたくさんの方に協力をいただき、ありがとうございました。



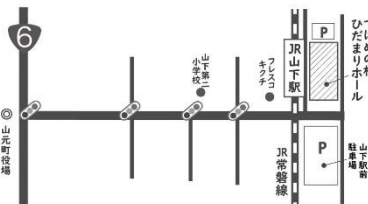
お問合せ

NPO法人ボラリス
TEL/FAX：0223-36-7410
メール：activities_polaris@yahoo.co.jp

開催場所

山元町防災拠点・山下地域交流センター
つばめの杜ひだまりホール
宮城県亶理郡山元町つばめの杜一丁目8番地

●センター駐車場が満車の場合は、山下駅前駐車場を利用することができます。駐車料金を減免(無料)とする手続きを行いますので、駐車券を管理事務室までお持ちください。



文部科学省 令和5年度 学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業
「山元こぐまサロンを活用した障害者の学びの場共創プロジェクト3」

山元こぐまサロン2023 成果報告会

みんなで作る やまのよとのアート展

2023



2023年

12月6日(水)～9日(土)
10:00～15:00 (9日は12:00まで)
つばめの杜ひだまりホール
(山元町防災拠点・山下地域交流センター)

障害者週間に合わせ
山元こぐまサロン2023の集大成として
アート展と成果発表会を開催します。

※障害者週間とは？

国は、障害者基本法に基づき、毎年12月3日から9日までの期間を「障害者週間」と定めています。障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加すること等を促進するため、国及び地方公共団体が民間団体等と連携して、「障害者週間」の期間を中心に障害者の自立及び社会参加の支援のための様々な取組みを実施しています。

案内チラシを作成し、町内全戸配布しました。

YouTube
「ボラリスチャンネル」

「みんなで作る・やまのよとの
アート展」ダイジェスト



YouTube
「ボラリスチャンネル」

令和5年山元こぐまサロン
成果報告会



みんなでつくる やまのもとのアート展

障害を持つ人がプロのアーティストや地域の皆さんと一緒に自分自身を表現する体験をしました。

12月6日(水)～9日(土) 10:00～15:00 (9日は12:00まで)

①みんなでつくる コンセプトアート (3F 交流情報コーナー)

ボラリス、そして山元支援学校の皆様と共に廃プラスチックをアート作品に大変身させました。皆様楽しみながら制作しており、どれも個性的で素敵な作品になりました。納豆のフタなどの身近な廃材が唯一無二の作品に生まれ変わりました。



作品制作や展示発表を通して、海洋プラスチック等の社会問題に目を向けるきっかけとなれば幸いです。これまで制作してきた作品が一同に集まります。是非お越しください。

(アートワークショップ講師：今野裕結)



②みんなの作品紹介 (3F 交流情報コーナー・会議室6)

山元支援学校・ボラリス「こら・ふく」アトリエの会・ひろばボラリス(地域活動支援センター)の利用者と、講師のアート作品を展示します。

のびのび描いた作品が
多数展示されます。
お楽しみに♪

講師の方々の、迫力ある
作品も楽しめます！



【作品出品者】
宮城県立山元支援学校
ボラリス当事者会
ひろばボラリス(地域活動支援センター)
今野裕結
しょうじこずえ
ワークショップに参加した地域の方



今野 裕結 (C.A.M. ひまひ)
画家・モデル/元教師
(中高美術・特別支援学校)
宮城県石巻市出身。鑑賞者との
繋がりによって完成する参加型
の絵画(ネグサス絵画)を得意とし、
作品を発表している。個展や
グループ展多数開催。
リアス・アーク美術館公募展
LANDSCAPE of NE Vol.5東北
・北海道の風景 審査員賞



しょうじ こずえ
画家・彫刻家
宮城県山元町出身。
東北生活文化大学 卒業。
絵画制作や楽器で精力的に創作
を続けている。
第57回宮城県美術展 彫刻賞
宮城県芸術祭賞 受賞者



③アートワークショップ (3F 会議室5) 12月7日(木) 10:00～15:00



五感をフルに活用するワークショップを企画。
詳細は当日のお楽しみ。気軽にお越しください♪

山元こぐまサロン成果報告会

12月9日（土） [時間] 10:00～11:30
[会場] 1階 文化研修ホール

[対象] すべての人(障害のある人と家族・支援者、福祉事業所の人、特別支援学校・学級の方、社会教育関係者、その他地域の方々)

報告

1 そうだ！みんなで体操しよう。

～まずはみんなで体操して、リラックス（アイスブレイク）～

今年度新たにチャレンジした「そうだ！体操に行こう」。町の生涯学習サークルに障害者が参加し、どんな成果があったのでしょうか？

担当：伊藤順子さん（民生委員・体操講師） & ポラリス当事者会



2 ユニバーサル学習

障害のある人もない人も共に楽しく学んだユニバーサルな学びの場。今年は4つのテーマで開催しました。「世界を巡る音楽の旅」「保健師さんに聞いてみよう。からだのこと・健康のこと」「もっと好きになる みやぎ・やまもと」「レッツ！古事記」。当日の様子を動画で振り返ります。

担当：ポラリス当事者会



3 うたカフェ

～みんなで歌おう。元気になるうた♪～

音楽を通して、声やからだを使って表現することの楽しさを学びました。今年度は聴く側から演奏する側になって、報告します。

担当：どらごえサークル（講師） & ポラリス当事者会



4 みんなでつくる アートのじかん

プロのアーティストや、山元支援学校、地域の皆さんと一緒に楽しくアートをやってみたら・・・こんな作品ができました！その活動の様子を紹介します。

担当：今野裕結さん（アート講師）



5 自然&宿泊体験@蔵王自然の家

（宮城県「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」と共催）

～キャンドルファイヤーで踊ったフォークダンス（タタロチカ）をみなさんと～

普段外出や家族以外の人と宿泊することが少ない当事者たちが、蔵王の環境を活かした楽しい学びの体験をして、どんな価値や変化を生んだのかを振り返ります。

担当：ポラリス当事者会 & ボランティア



「山元こぐまサロン成果報告会～みんなでつくる やまのもののアート展」開催にあたって

山元町では、令和3年度から町とNPOと地域が連携し

「障害のある人とない人が共に学び、共に生きる」地域づくりを目指し、「山元こぐまサロン」の共創に取り組んできました。地域の中で就労や就労訓練に取り組んでいる障害者が、知りたいことを学ぶことや余暇活動への楽しみを見出し心豊かに生活できるようになること、そして令和5年度からは、支援学校在学中の生徒さんや保護者の方々にもアートの体験や情報交換の場を設け、卒業後の日中活動や余暇の過ごし方について具体的なイメージを持っていただくことにも取り組んできました。

この3年間の活動成果を「山元こぐまサロン～みんなでつくる やまのもののアート展」で多くの皆さんに知っていただけたらと思います。

●12月6日(水)～12月9日(土) 10:00～15:00 ※最終日のみ13:00まで

●会場 つばめの杜ひだまりホール 各会場

●参加者:332名

	アート展				成果報告会	計
	12/6	12/7	12/8	12/9	12/9	
障害者	6	14	12	1	14	47
障害児	-	10	-	-	-	10
保護者	3	5	1	2	10	21
教員	-	5	-	-	2	7
一般	22	42	15	35	43	157
ボランティア	1	1	1	1	10	14
講師	1	2	3	2	14	22
関係機関	-	8	-	-	-	8
行政	2	1	3	4	11	21
支援スタッフ	3	6	6	1	9	25
	38	94	41	46	113	332



●目的

山元こぐまサロン2023の1年間の集大成として、成果発表会を兼ねた展示・発表を企画した。プログラム毎の発表の他、障害のある人もない人も共に楽しむことのできるアートワークショップや作品展示、ライブアートを実施。全国障害者週間(12月3日～9日)に合わせて町の施設を利用して開催することで、地域に向けて、障害の有無にかかわらず「全ての人のための生涯学習の環境整備」と、障害のある人とない人が支え合う「共生社会づくり」の発信をすることも合わせて目的とした。



●内容

①アート展示

「みんなでつくる・アートの時間」で制作したコンセプトアート作品や個人作品を、フリースペースに展示した。併せて、町内で就労訓練活動をしている障害者や、山元支援学校在学中の生徒が、日頃より制作した作品も展示した(3Fフリースペースのパネルを使用)。

また、アート講師でプロの画家である今野裕結氏・しょうじこずえ氏の展示コーナーも設けた(会議室6)。



②アートワークショップ

(12月7日(木)10:00～15:00 会議室5)

アート講師2名が今年度実際に行った4つのワークショップ(①廃プラスチックを使用したコンセプトアート、②和紙に絵を描いてみよう、③紙に刺繍をしてみよう、④端切れを使った貼り絵づくり)を体験できるコーナーを設置。また、障害当事者であり、動物アーティストであるシートン大友氏の「ライブアート」コーナーも設け、障害の有無や年齢にかかわらず、創作活動を気軽に体験できる場とした。

③個別相談コーナー(会議室7)

精神保健福祉士/社会福祉士が常駐し、来場者のなかで、障害当事者やご家族の地域生活等に関する個別相談があればいつでもお受けできる場を設けた(体調に合わせて使用できる休養室も兼ねた)。

会場を訪れたご家族同士、また福祉専門職同士の情報交換の場ともなった。

④成果報告会

(12月9日(土)10:00~12:00 文化研修ホール)

1年間の集大成として、「体操」・「ユニバーサル学習」・「アート」・「歌」・「宿泊自然体験」の各プログラムについて、当事者がある成果をそれぞれの方法で発表する場。当事者以外に、これまでプログラムを担当された講師や地域の一般参加者、ボランティアも招き、皆で楽しく発表・交流できる機会とした。

(プログラム内容)

- ・前半司会者自己紹介
- ・開会のごあいさつ:NPO法人ポラリス 代表理事 田口ひろみ
- ・ごあいさつ:山元町役場 教育委員会教育長 菊池卓郎さん
- ・応援のメッセージ:山元町議会議員 岩佐孝子さん

・第一部 報告

- 1) そうだ！みんなで体操しよう
担当:ポラリス当事者会&講師 伊藤順子さん
ゲスト:坂元元気アップ・フレッシュダンベルの皆さん

- 2) ユニバーサル学習
担当:ポラリス当事者会

- 3) みんなでつくる・アートの時間
担当:ポラリス当事者会&講師 今野裕結さん
ゲスト:宮城県立山元支援学校 教頭 菅原綾さん

—休憩—

- ・後半司会者自己紹介

・第二部 報告

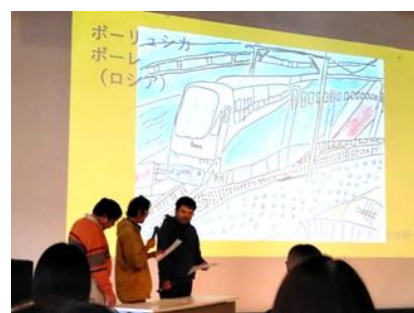
- 4) うたカフェ
担当:ポラリス当事者会&講師 どらごえサークル

- 5) みんなでつくる・アートの時間
担当:ポラリス当事者会&学生ボランティア
ゲスト:宮城県生涯学習課 平井美江さん

- ・閉会のごあいさつ:NPO法人ポラリス 引地奈美
- ・アンケート記入、アート展会場のご案内、閉会



トップバッターは体操チーム。アイスブレイクのゲームで会場の雰囲気はほぐれました。



ユニバーサル学習チームは、動画とスライドを使って発表しました。



最高齢の参加者が、蔵王でチャレンジした「人生初体験」トークに、会場が引き込まれました。



蔵王で踊ったフォークダンス「タタロチカ」を会場の皆で踊りました。ヤクシー！

●成果

◆当事者が楽しく、主体的に学ぶ

- ・今後も学びの場を継続したいか？→希望する84.6%（アンケートに回答した当事者13名中）
- ・当事者がサロン運営に参加できたか？
→参加者15名が、アート展や成果報告会の会場準備／片付け等に参加できた。

・アート展では、自身もアーティストである当事者1名が4日間通して会場受付を担当。また、ワークショップ開催日には、ライブアートコーナーを担当し、来場者と交流することができた。

・個別相談コーナーでは、当事者1名が持ち前の茶道のスキルでお抹茶を振る舞うなどの接客をすることができた。
・当事者が日替わりでアート展の会場案内係を担当し、自身の展示作品を通して来場者と楽しく交流することができた。

・成果報告会では、当事者2名が司会を担当することができた。またプログラム毎の発表においては、当事者11名が、スタッフや講師、ボランティアの協力を得ながら、担当するパートの発表を行うことができた。

◆新しいつながりを作る

(新たな当事者が、プログラムに参加する)

・アート展では、山元支援学校でのワークショップでつながった生徒や教員、家族が来場され、作品やワークショップへの参加を楽しまれた。

・会期中に開催したアートワークショップには、町内の児童発達支援や放課後等デイサービスを利用されている児童とそのスタッフ延べ9名が参加され、町内の児童福祉サービス事業所にも活動を知っていただくことができた。

(新たな協力者を増やす)

・成果報告会では、初めて町の教育委員会・教育長が参加されたほか、山元町議会議員も数名参加され、町内のさまざまな立場の方に、活動を知っていただく機会となった。

・今年度のプログラムの協力者である地域の体操サークルより7名が成果報告会に参加され、当事者や講師らと共に、発表を担当された。

・新たに6名の大学生が、成果報告会の運営にボランティアとして参加され、障害のある方と共に活動することを体験された。

・地域の高齢者1名が会期中の会場守衛係を担当され、作品だけでなく、当事者の活動も見守り、その特性等についても理解いただくことができた。

・4日間連続で会場を貸りて行うイベントは、ひだまりホールでも初めてであったが、会場の職員に理解や協力をいただきながら、展示作業を進めることができた。

・アンケートでは、「ボランティアやイベント等で今後も関わってほしい」といった意見が多く聞かれた。



◆その他

・2名のアート講師のつながりで、町外からアート関係者も数多く来場され、普段障害者の文化芸術活動に触れる機会のない方々にも、直接当事者やその作品に触れていただくことができた。

・宮城県内外を含め、山元町以外の16の市町村から来場者が集まった。中には、今年度新たに参画している宮城県コンソーシアムの関係で、県庁や塩竈市の職員の視察もあった。

・県内各所から福祉や生涯学習の専門スタッフが訪れ、障害者の生涯学習や、支援学校在学中から地域とつながることの大切さについて、情報交換を行うことができた。

・アート講師が企画したワークショップは、障害の有無や年齢に関係なく誰でもが楽しめる内容で、小さな子どもから、学生、大人まで、初めて挑戦する方も楽しく参加することができていた。

・会期中に地域の新聞社やラジオ局の取材が入ったことで、町内からの来場者が増えた。

●課題

・他市町村に住む参加者からは、「自分の町でも同じような取り組みを進めてほしい」といった声が多く聞かれた。今後ボラリスとして、周辺市町村にも活動を広めていくために、どのような方法が取れるかを考えていきたい。

・障害者週間に合わせた企画は今回が初めてだったが、今後も継続するか、もし継続するなら頻度や内容をどうするか、検討していきたい。



●感想(アンケート自由記述より)

【アート展について】

個性・多様性について

- ・作品に個性があふれ、素晴らしかった。
- ・色使いなど、鮮やかなものが多く、楽しい気持ちになった。
- ・発想の力ってすごいね。
- ・さまざまな色や形のアートは私には考えられないと思った。
- ・素敵な柄がいっぱいあった。グッズにしてほしい。
- ・こんなこともできるんだと目から鱗です。

コンセプトアート作品について

- ・納豆の蓋に思い思いの表現があり、皆のいつもの成果が出ていてよかった。
- ・とても素敵なアート展、これからもっともっとたくさんの作品を見てみたい。
- ・地域の皆さんと山元支援学校の児童生徒が障害の有無によらず1つの展覧会を開催できたこと、とてもすばらしいと思います。感激です。
- ・自分の思いを自由に表現できる場があって、大変すばらしいと思った。
- ・カラフルでとても楽しかったです。
- ・濃い色を使ったアートが多く感じた。視覚的にインパクトの強いアートが多く、見ていて飽きなかった。
- ・バックアートとでも言うのでしょうか？大きな作品になっているのいいですね。200号から300号のキャンバスをイメージして、みんなで1つの作品を作る方向が素晴らしいです。
- ・再生プラスチックを使った作品がよかったです。



支援学校の作品は、横幅10mの超大作でした！



アート講師である今野さん・しょうじさんの「ふたり展」会場では、プロの迫力を間近に体感することができました



和紙の風合いを生かした作品は、展示方法にもこだわりました

作品について

- ・花火ダイナミックでした。ほかも細かな作業で作りに上げられていて素敵だった。
- ・(支援学校の)生徒が作った作品の中に、とても手の込んだ作品や、とても自分では思いつかないような作品が多くあって、とても感銘を受けた。
- ・プロの方の作品も鑑賞できたが、色反転を用いることで本物の色になるくだものの作品は発想がとても素晴らしいなど感じた。
- ・一作一作丁寧に仕上がって素晴らしい作品だった。
- ・色反転など興味深い作品が多く驚いた。写真のような精密な絵画や独創的な作品が印象的だった。
- ・表現することに誰もが参加できるもの。絵画や音楽など素材などをどう生かすかなども、個々の感性をどう表現に結びつけていくか、障害者をどうサポートするかなど、周りの人の関わりが大切になってくる。
- ・一つ一つの作品の個性を感じました。皆さんがどのようなことを感じて制作したのか、作品にどのような思いが込められているのか、考えながら見ることができ、とても楽しかった。
- ・自分が作った刺繍が展示されていたので、作って良かったと思いました。



廃プラスチックを利用したコンセプトアートは、会期中もどんどん進化し、来場者を楽しませてくれました。

アートで障害者と地域の皆さんがつながる

「山元こぐまサロン」アート展

先月6日から9日の4日間、つばめの杜ひだまりホールを会場に、NPO法人ポラリスが主催する「みんなでつくる・やまのものアート展」が開催されました。

このイベントは、障害のある人とない人が共に楽しく学び、交流を深め、互いに顔の見える関係を築こうと、令和3年度から実施している「山元こぐまサロン」の集大成として企画されたものです。

会場には、同施設の利用者や山元支援学校の児童・生徒、地域の方などが制作した、描画や刺繍、布の貼り絵などの作品約300点が飾られたほか、障害者週間に合わせたワークショップも開催されました。

田口ひろみ代表理事は「アートを接着剤として、障害者と地域の皆さんとのつながりが深まり、うれしく思います。今後も、しなやかで優しい文化のあるまちになることを目指して活動を続けていきます」と語りました。



創造性豊かな力作ぞろいの作品を展示



ワークショップで講師を務めた画家の今野裕結さんと美術家のしょうじこずえさんの作品も展示。プロの作品に触れアートを楽しむ来場者

アートワークショップについて

・展示だけでなく、ワークショップに参加でき、作った作品を展示できて楽しかった

その他

・地域での居場所作りの1つの手段としてアートがあるというお話が印象的でした。
・私もアート制作をやりたい！と思わせられる気持ちがかもった作品だと感じた。
・展示に関わらせていただき、山元町から離れた後も、こうやって山元町の皆様とつながることができて、とても温かい展示期間だった。
・息子は角田支援学校に通っています。たまたま新聞を見てやってきました。高校3年で卒業です。いろいろ学ぶことが多かった。



山元支援学校の生徒や地域の方の参加者も、ワークショップに参加され、思い思いの作品を完成させました。

【成果報告会について】

当事者の主体的な学びについて

・堂々として頑張っていた。
・自分の言葉で話されたことが素晴らしかった。
・自分のできることに懸命に取り組まれている様子に感銘を受けた。
・皆いきいきとして大変よかった。
・障害者が発表するという考えが今までなかったので、発表していて驚いた。
・発表する皆の緊張した様子や生き生きとする姿が印象的だった。

プログラム作りの工夫について

・ここまでの皆さんの努力、準備、いろいろな活動、活発な行動に感心した。
・初めて参加した人にも、ボラリスの活動を通して頑張り、達成、成長などがよく伝わった。
・日頃の活動でつながった方がこの場に「帰ってきた」という感覚となっているのがとても良い。
・当事者が発表の機会を得てしっかりと発表しているような場の設定が良かった。
・当事者らが主体的に発表(表現)できるように工夫して進行しているところがよかった。
・「ひとりぼっちのあなたへ」の歌と踊りは素敵なパフォーマンスだった。
・工夫を凝らした様々なプログラムの実践について知ることができてよかった。

楽しい学びについて

・楽しい1日だった。時間を忘れて楽しめた。
・最初は少し固い雰囲気だったが、アイスブレイクで少し運動すると雰囲気が少し柔らかくなりよかった。
・楽しくて、学校でも活用していきたい内容だった。
・どの取り組みも皆さんが楽しく取り組まれており、素敵だと思った。



蔵王でチャレンジした「ニジマスつかみ」。命をいただくことの意味を学べたことを、自分の言葉で発表できました。



うたカフェチームの発表。幸せなら、おなか叩こう！握手しよう！ハグしよう♡

共に学び(学びの場づくり)&共に生きる(地域づくり)について

・障害のある人となない人が共生しようという意思がよく伝わってよかった。

・外部の方々と共にする貴重な体験、良い発表の場面を見学することができた。

・当事者も発表しているのを見て、共生を実現していると感じた。ぜひ自分の所でも実践したい。

・どんな立場であれ、各々が当事者意識を持って行動できるような社会を作っていきたいと思う。

・普段知的障害者や精神障害者と関わる機会がないので、交流をする機会は非常に貴重だった。

・アートの時間や歌カフェ、ダンスなど健常者と障害者関係なしにともに地域で活動するという方針が感じられ、私自身も一緒に歌ったり踊ったり体操したり、とてもアクティブに参加することができた。

・支援する人される人という区別はあまりないのかもと思った。

・「卒業後のこどもたちの居場所が必要だ」と気づいたと言う言葉から、ポラリスの存在の意義を再確認した。

・学校卒業しても学び続ける事は大事で、障害を持つ人が学べる環境があることを改めて素晴らしいと感じた。障害の有無に関係なく一緒に学ぶ場があることで、互いの理解にもつながり、共生社会に近づくと感じた。

・パラリンピックや24時間テレビで見るのは若い障害者ばかりなので、30代以上の障害者の方と話せたのは貴重な体験で新鮮だった。

要望

・また来たい。/今後もこのような機会があったらぜひ参加したい。

・今後学生ボランティア活動でもポラリスに関わりたい。

・多くの方に参加できるようになってほしい。

・どんな地域にもポラリスのような活動(団体)があったらいいなと思った。

・「一人ぼっちのあなたへ」の歌詞が欲しかった。

・町、県、国が一体となってこのような活動されていることが他の地域にも広がっていて、福祉への理解につながってほしいと心から願う。



大学生もたくさん駆けつけ、運営のサポートをしてくれました。

山元・県支援学校と事業所利用者

障害者の独創アート集

山元・県支援学校と事業所利用者

山元町内にある障害福祉事業所の利用者、山元支援学校の児童生徒の芸術作品を発信する「みんなてつくる やまのもの」の「アート展」が6日、町つばめの杜ひだまりホールで始まった。水彩画や刺しゅう、カラフルに絵付けされたけしな(多彩な約300点を披露する。9日まで。

町と地元のNPO法人「ポラリス」が2021〜23年度に展開した地域の障害者や町民が共に学ぶ生涯学習事業「山元ぐまサロンの集大成として企画した。支援学校高等部3年生が短く切ったマスキングテープを重ね貼りしてヒマワリを描いた絵画や、就労支援施設利用者が和紙に端切れ布やレースを貼り付けて太陽と花を表現した作品など、独創的な力作が並ぶ。ポラリスの田口ひろみ代表理事は「アートを接点に、来場した人が立場を超えてつながり合う場になってほしい」と願う。

サロンの講師を務めた沼市の画家今野裕樹さん(30)と、石巻市の美術家しよし(35)が、色鉛筆画や造形作品なども紹介する。

水彩画、こけし… 学習サロンの成果300点

福祉事業所の利用者と山元支援学校の児童生徒の多彩な作品が並ぶアート展

午前10時〜午後3時(9日は正午まで)。無料。9日午前10時〜11時半に今野さんらが登壇するサロン成果報告会がある。定員250人。連絡先はポラリス0283(36)7410。



みんなでつくる やまのよとのアート展



連携協議会

第1回連携協議会

開催日時 2023年6月2日(金) 13:00~14:30
場 所 つばめの杜ひだまりホール 会議室5

参加者

森 明人(東北福祉大学 准教授)
木戸 真希(宮城県立山元支援学校 主幹)
森 光子 (どらごえサークルリーダー)
伊藤 順子(ホップステップメンバー/民生委員)
今野 裕結(アーティスト)
Aさん(ポラリス「こう・ふく」アトリエの会/当事者)
加納 てる子(ポラリス保護者会 連絡員)
小泉 大輔(山元町基幹相談支援センターやすらぎ 管理者)
武内 紳也(山元町教育委員会生涯学習課 副参事)
安達 久美子(山元町保健福祉課 主事)
品堀 学(特定非営利活動法人ポラリス 就労B管理者)
引地 奈美(特定非営利活動法人ポラリス 地域活動支援センタースタッフ)
田口 ひろみ(特定非営利活動法人ポラリス 代表理事)

<次第>

- 1.今年度の事業全体像の共有(別紙参照) 田口より
 - ・文科省事業は今年3年目。
 - ・「共に学び、共に生きる 地域共生社会」に向けて
 - * 山元町のマンパワーと社会資源に応援をもらいながら
 - * 持続可能な生涯学習プログラムを整備していく
- 2.各プログラムの紹介(別紙参照)
 - ①ユニバーサル学習はテーマをしぼって、2回開催
 - ・5月11日にはプレイベントも開催した。
 - ②みんなでつくる・アートの時間
 - ・支援学校卒業後の生涯学習のために、在学中から生徒や保護者とつながるために。
 - ③そうだ！たいそうに行こう
 - ・障害者が地域に繰り出して、体操サークルにまざり、活動する。
 - ④うたカフェ
 - ・うたを通して当事者が自己表現する機会にしたい
 - ⑤宿泊&自然体験@蔵王自然の家
 - ・宮城県との共催事業。
 - ・県職員とも、障害者の生涯学習をともに学び、創っていききたい。
 - ⑥成果報告会「みんなのアート展」
 - ・それぞれのプログラムの成果を持ち寄って作っていききたい。
 - ・内容については連携協議会のメンバーとも話し合っ作っていききたい。

4.参加者自己紹介

今野裕結さん(アーティスト)

画家・モデル・俳優であり、教育者。アートワークショップは現在月1回開催。「コンセプトアート」は、廃プラスチックを生かした作品作り。ポラリスメンバーと支援学校生徒が取り組んでいる「リサイクル」の活動、社会発信にもつなげたい。

支援学校の生徒も含め、当事者には自己表現の場、発表の場がなかなかないもの。12月のアート展では、その両方をつくっていききたい。単発のワークショップではライブアートで作品作り、そのまま展示まで、のプロセスを体験できるかも。

木戸真希先生(山元支援学校教員)

本年度は支援学校を会場に、2回アートワークショップを開催予定。生徒の余暇活動支援の取り組みは学校では手薄になりがちなので、今回のように地域側から企画してもらえるのはありがたいこと。また、コロナが落ち着いてきた中で、学校としても地域とのつながりづくりをしていきたいと感じていたところ。今回プログラムに声がけしていただき、とてもありがたく感じている。

Aさん(当事者)

障害当事者であり、事務の手伝いなどで、サロンに参加している。

自分自身については、高齢化しており、以前と悩みが変わってきた(親の介護、高齢化、実家の処分の問題など)。相談相手がいないということも、悩みどころ。

加納てる子さん(保護者)

今年度、親はプログラムの予定を見ながら個々の自由参加にしていきたい。保護者も一緒に楽しんでいきたい。これまでポラリスの活動に参加してきたなかで、だんだんと「保護者」の立場から「ボランティア」の立場の気持ちが高くなってきたと感じる。

森光子さん

過去2年はサークルとして歌や語りの発表を中心に参加してきたが、今年度は当事者といっしょに作っていくことにチャレンジ。またサークルとして、地域とつながる活動をしていきたいと考えていたところなので、ありがたい。今年の「うたカフェ」では、うたごえ喫茶を復活させたい。歌うだけではなく、体を動かすことにも取り組みながら。歌集作りにも挑戦したい。

伊藤順子さん(民生委員/健康体操講師)

からだづくりを担当する。事業開始前からすでに、当事者は毎月地域の体操サークルに参加継続されているが、地域の皆さんの受け入れ体制がとても優しく寛大で、とても感謝している。講師としては、「何を一緒にしたら楽しいか？」という視点でメニュー作りをしている。坂元地区の体操サークルでは11月に地域で発表会がある。当事者にとっても目標があると、モチベーションになるのでは？12月の成果報告会に向けて、皆で取り組んでいきたい。また、秋には体育文化センターが使えるようになる。そこで運動会を企画しても楽しいかな。体操サークルは、地域の方と出会う場であり、居場所にもなっている。

支援学校生徒の学卒後のゆくえについては、民生委員のなかでも話題になっていた。また、ひろばポラリスの活動に参加したことがあるが、親同士が相談し合える関係性が高い。保護者がつながらる場にもなれば、..

小泉大輔さん(基幹相談支援センターやすらぎ)

基幹相談支援センターやすらぎでは町民全体を対象として、相談事業をおこなっている。サロンに参加することで、基幹としても一緒に学びあっていきたい。「楽しい学びはポラリスで、相談ごとがあればやすらぎへ」、という関係を続けていきたい。

武内紳也さん(派遣社会教育主事)

派遣社会教育主事。昨年までは山元中学校に10年間勤務していた。今までは教員生活だったので、この仕事は自分にとっても新しいこと。社会教育は地域を担っているの、学校とは全然違う。今まではこども(保護者)しか見ていなかった。今は地域を見ている。生涯学習課として場所を提供するだけでなく、自分自身も学び、今後に活かしていきたい。

安達久美子さん(保健福祉課)

早速来月のユニバーサル学習プログラムを、共創していく。自身は役場に入職し、地域包括支援センター勤務の後、平成30年まで福祉課の業務を担当し、産休育休を経て、今年度復職した。休暇前と比べて、現在は連携が図れていると感じられる。担当職員として、一緒にワクワク楽しませていただきたい。

森明人さん(東北福祉大学 准教授/ アドバイザー)

今年3年目で、総仕上げの年。

初年度と比べると、プログラムの充実化が進んできたと感じられる(音楽、体操、アートなど)。また地域づくりを担うポラリスと、相談支援のやすらぎがタッグ組んでいるのは山元らしさ。障害者を中心に置いて、関係団体が横につながっているのは先駆的な地域づくりである。学校教育が地域に開かれた学校作りを目指していこうというのが大きな流れであるなかで、ポラリスの実践についても、地域の関係団体とつながりながら、地域に開かれた学びをこれからも続けていくことが大切。

また伊藤さん(ホップステップ)のダンベル体操は、各行政区につながっているとのこと。当事者が各地区に出かけていっしょに体操すると、地域とつながるきっかけになるのでは? 障害者が取り組むプログラム(運動、歌、アート)が、地域とのつながりづくりの接点となる。そして地域とつながることで当事者の普段の暮らしのなかでの不安、心配ごとをさきえていく地域づくりを。

また昨年度オープンしたひろばポラリスは地域とつながる場。今年度は発展の要素を実践していきたい。

5.「アート展&成果報告会」について(2023年12月6日(水)~9日(土))

- ①アート展示:12月6日(水)~9日(土) @ひだまりホール3階各会場
(当事者/支援学校/アーティストの作品の合同展示)
- ②各種ワークショップ:12月6日(水)~8日(金) @ひだまりホール3階 各会場
(アート/体操/うた…)
- ③成果発表会:12月9日(土)10:00~12:00 @文化研修ホール
(実施プログラムごとに発表)

<意見・アイデアなど>

・成果を求めるといより、障害特性に合わせて、みんなで楽しみたい。(田口)

*** 支援学校生徒/保護者との関わり ***

・プロのアート(今野さん、しょうじこずえさん)もおりませながら、支援学校の生徒の作品も展示することで、保護者ともつながりたい。(今野)

・子どもたちを学校外に出すのは、なかなか大変なこと。自分ごとの展示であれば、休日にお金をかけてでも家族と生徒が展示を見に来るのでは?(木戸)

*** 学生ボランティアの関わり ***

・福祉大の学生もコンスタントに関わっていく予定。さまざまな企画を学生としていくにあたって、「本人がやりたいかどうか?」がポイント。ゼミや講義のなかで手上げ方式で、希望者を募ることができれば。(森)

*** 若者の人口流出を防ぐには? ***

・高校/大学がない中山間地で、人口流出を防ぐのは現実的に難しい。だったら、一度出た若者が戻ってくる地域とはどんなところ?という視点で考えること。(森)

・まちの魅力とは何だろう?自分は山元生まれで、今まで知ったつもりでいたこのまちのこと、実は何にも知らなかったということに、大人になって気がついた。(小泉)

・地域に愛着をもつことと同様に、地域で暮らし続けるという現実的な部分も合わせて考えていくこと。(森)

・一度町外に出ることで、自分のまちとよそを比較できる。地元の良さを知るきっかけにもなる。地のりが悪い地域は、発信することが大事。(木戸)

*** 活動の発信方法について * (藤沢)**

アート:展示作品のストーリーも合わせて、SNS等も活用し、発信するのはどうか?

→インスタグラムの公式アカウントを作ってみては?(今野)

うた:カラオケ風ムービーがあると、地域の方も参加したくなるのでは?

たいそう:真似したくなる「かっこいい体操ムービー」があると、モチベーションになるのでは?

*** その他 ***

障害福祉について、制度の説明をしてもらえたり、相談ができる場があるとよい。(藤沢)

第2回連携協議会

開催日時 2024年1月11日(木) 13:00~14:30
場 所 つばめの杜ひだまりホール 会議室5

参加者

伊藤 孝浩 (山元町教育委員会生涯学習課 課長)
武内 紳也 (山元町教育委員会生涯学習課 副参事)
木村 伊織 (山元町保健福祉課 福祉班 班長)
森 明人 (東北福祉大学 准教授)
菅原 綾 (宮城県立山元支援学校 教頭)
森 光子 (どらごえサークルリーダー)
伊藤 順子 (ホップステップメンバー/民生委員)
今野 裕結 (アーティスト)
Aさん (ポラリス「こう・ふく」アトリエの会/当事者)
加納 てる子 (ポラリス保護者会 連絡員)
小泉 大輔 (山元町基幹相談支援センターやすらぎ 管理者)
刈田 路代 (特定非営利活動法人ポラリス アートスタッフ)
品堀 学 (特定非営利活動法人ポラリス 就労B管理者)
引地 奈美 (特定非営利活動法人ポラリス 地域活動支援センター スタッフ)
田口 ひろみ (特定非営利活動法人ポラリス 代表理事)



<次 第>

1. 事業目標の振り返り
2. 実施プログラムの実施報告
 - ①ユニバーサル学習
 - ②みんなでつくる・アートのじかん
 - ③そうだ！たいそうに行こう
 - ④うたカフェ
 - ⑤宿泊&自然体験@宮城県蔵王自然の家
 - ⑥ICT体験倶楽部
 - ⑦成果報告会
3. 成果(効果)の検証
 - ①参加者アンケートから (参加型評価)
 - ②直接的に得た成果について
 - ③事業の実施により終了後(中長期的)に得た成果について
4. 事業終了後の成果活用について意見交換
5. その他

成果の検証

●「山元こぐまサロン」参加者数

	ユニバーサル 学習	アートの じかん	たいそうに 行こう	うたカフェ	蔵王宿泊	ICT倶楽部	アート展 成果報告会	計
障害者	38	73	65	73	9	2	47	307
障害児	-	25	-	-	-	-	10	35
保護者	10	9	-	5	1	-	21	46
教員	-	27	-	-	-	-	7	34
一般	36	13	87	5	-	-	157	298
ボランティア	1	-	-	2	3	-	14	20
講師	5	9	10	38	5	-	22	89
関係機関	8	-	-	8	-	-	8	24
行政	11	-	-	1	1	-	21	34
支援スタッフ	17	33	17	22	5	2	25	121
計	126	189	179	154	24	4	332	1008



①当事者が楽しく、主体的に学ぶ

□プログラム後に実施するアンケートにおいて、障害児者の90%が「学びやすい」「参加しやすい」「楽しい」と評価した。

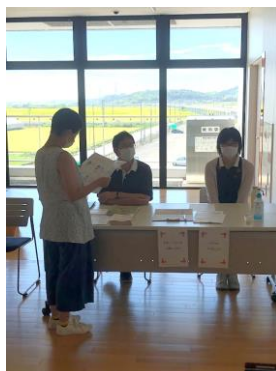
➡90%(100%)

□のべ111名以上の障害児者が、サロン運営(会場設営・資料準備・受付等)に参加した。

➡184名(166%)

□のべ50名以上の障害児者が、「みんなのアート展」(成果発表会)で、学びの成果を表現する。

➡57名(達成度114%)



②新しいつながりをつくる

□新たな当事者が、プログラムに参加する

・10名以上の障害児者が、プログラムに初めて参加する。➡40名

・10名以上の保護者が、プログラムに初めて参加する。➡22名

□新たな協力者を増やす。

・5名以上が、新たにプログラム講師となる。➡16名

・5名以上が、新たにボランティアとして企画運営に協力する。➡25名

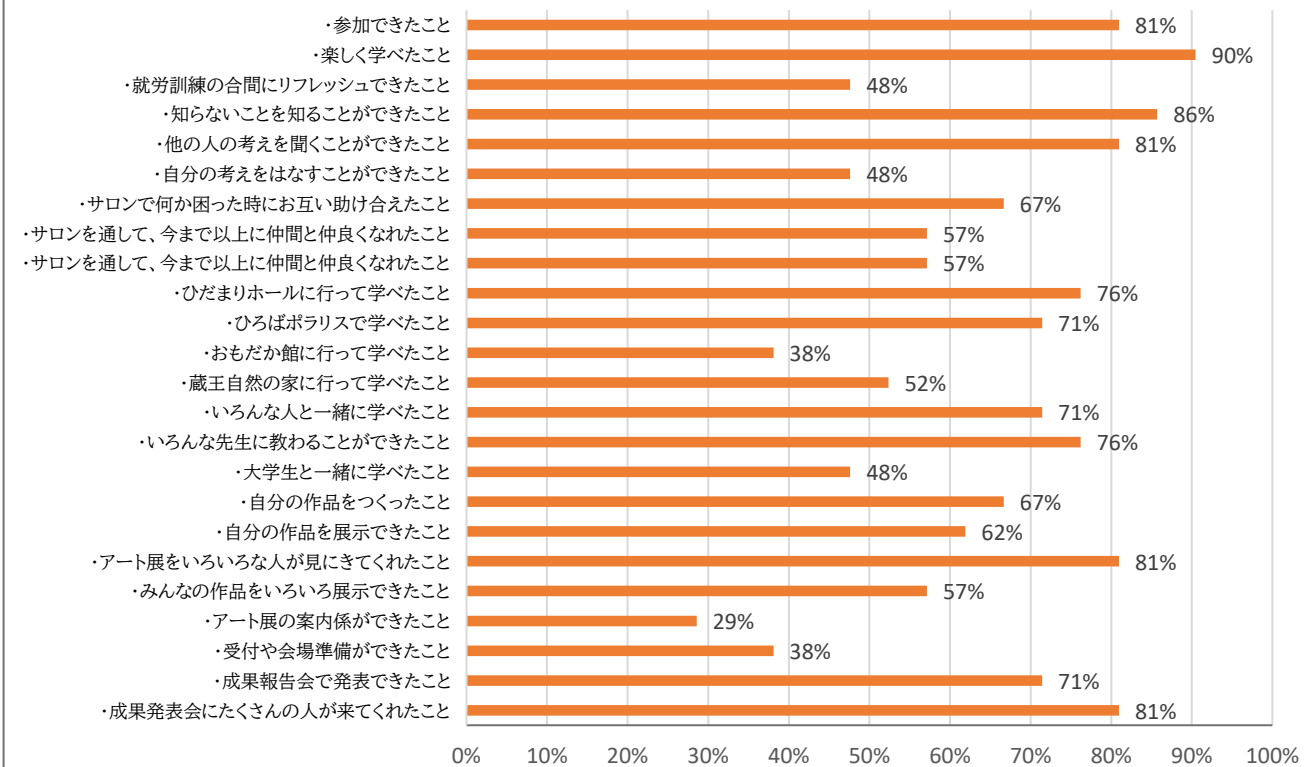
・2か所以上を、新たなプログラム会場とする。➡5か所



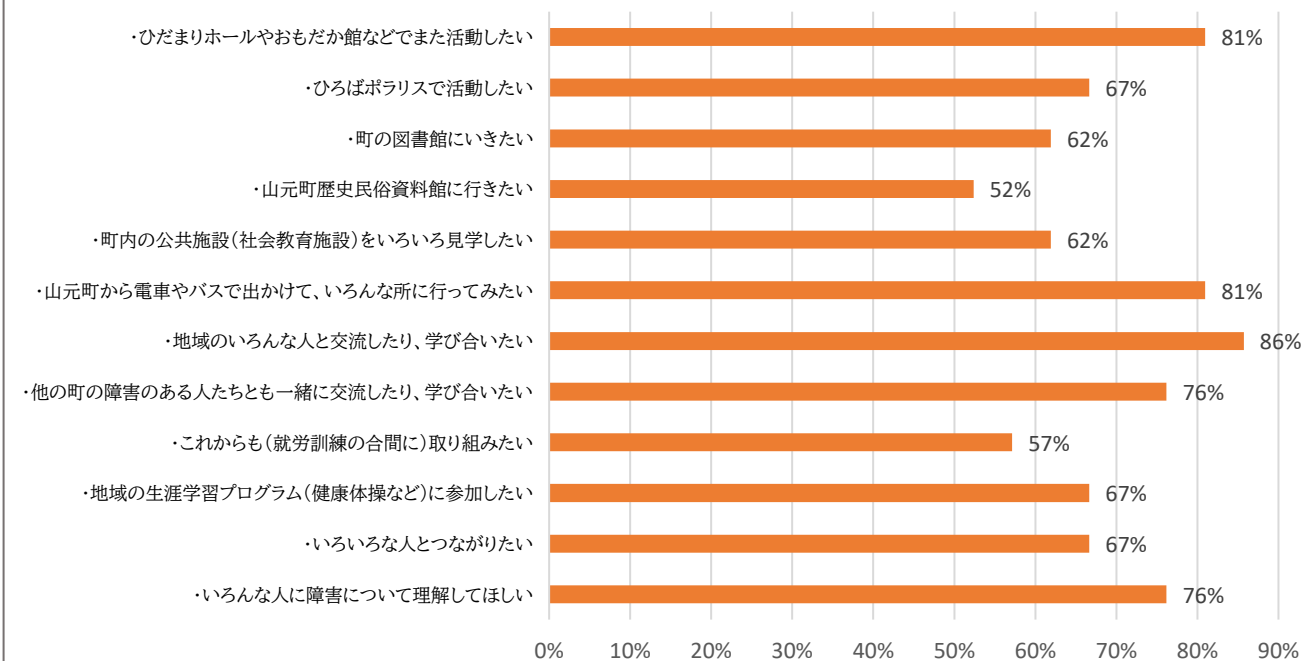
「山元こぐまサロン」についてのアンケートから

回答者：当事者・保護者・職員 合計21名

①山元こぐまサロンに参加してよかったこと



②「学び」の活動に希望すること



③3年間の山元こぐまサロンを振り返って気づいたこと

◆当事者対象

自分がどう成長できたか(変化したか)

- ・自分で話すことができた。
- ・3年前より人としゃべれるようになった。
- ・少し人前に出て発表することに自信がついた。
- ・人と接するのが以前より気楽になった。
- ・サロンに自分の学生時代の後輩のお父さんが来てくれて話ができてよかった。
- ・地域の人と仲良くなれました。
- ・会場の準備できた。
- ・少しだけ自分も成長できた気がする。
- ・集団が苦手でも自分の担当部署を確保できれば活動ができた。
- ・いろんなお話を聴けて、こういう考え方もあるんだ、こういう方法もあるんだ、という学びがあった。

家族や地域の人がどう変化したか

- ・地域の方々が大分集まってくれるようになった気がする。
- ・地域の人がサロンに慣れてきたような気がする。
- ・いっぱい参加してくれて知らない人もいたが、知り合いが増えた。
- ・3年間で大事だと思ったのは、地域につながることで、家族の助けだと思った。
- ・普段ポラリスの行事に来なかった父親がアート展に来てくれて、作品をほめてくれて良かった。

◆保護者対象

自分にどんな変化があったか

- ・いろいろな学びができたこと。いろいろな方と出会えたこと。
- ・名前まではわからなくても顔を覚えていて挨拶できるようになった。

お子さんはどう変化したとを感じるか

- ・人の話を良く聴いて理解することができたように思う。
- ・成果報告会で皆の前で自分の名前や思っている事を発表できたことは親としてはびっくりした。
- ・笑顔だけが挨拶だったが、言葉であいさつ、ちょっと会話ができるようになって少し前進かな？
- ・はじめはあまりコミュニケーションが取れなかったが、今は質問に対して自分の意見をはっきり言えるようになったので良かったかなと思う。

地域や地域の人がどう変化したと思うか

- ・地域の方との親交を深めることができた。毎回楽しみに来ていただければいいと思う。
- ・スーパーで年配の人が娘に声をかけてくれた。
- ・民生委員さんが参加されてよかった。
- ・参加者を募集する方法から今年は地域の活動に参加する側になったことで、新しい出会いもあり、いろいろ分かってもらえるようになってきた。

◆支援者対象

自分がどう成長できたか(変化したか)

- ・自分から話し合いの場に臆せずに入っていけるようになった。
- ・サロンの翌日の就労訓練の際の声がけが変化した。
- ・普段の就労訓練では気づかないところを気づかせてもらっている。

障害のある方とご家族が変化したと思う点

- ・進んで準備ができるようになったし、人見知りしないので多くの人と交わることができるようになった。
- ・自分の意思で参加、不参加の選択ができるようになった。
- ・グループワークを通し、交流ができ距離が近くなったように思う。
- ・大きな声であいさつができるようになり、質問に対し受け答えができるようになった。
- ・(ご家族の変化について)自分の子どもだけでなく視野を広げて見守ってくださるようになったと感じる。

地域に変化があったと思う点

- ・ポラリスの活動に興味を持たれた方が多くなった。
- ・障害のある人に慣れてくれた人が多くて協力的な方が増えてくれた気がする。
- ・施設外就労先などで会った際に、「発表が上手だった」「体操にいつ来るの？」など障害のある人たちに気軽に声がけしてもらう機会も増えたように思う。
- ・講師の方々が、障害者への配慮を丁寧に考えて下さっていると思った。



当事者の地域生活への波及

就労や就労訓練に取り組んでいる障害者が、生涯学習や余暇活動への楽しみを見出すようになる。

(当事者会代表 Aさん)

- ・当事者アンケートより、プログラムづくりにあたって当事者の関心の高いテーマや、当事者にとって身近な話題が大切であると思った。興味深さや楽しさが、学びを豊かにする。知識や理解、受け止め方は個々によって深さが違うけれど、それはそれで良いのではないかと思う。全員が理解できる内容を意識しつつも、学びの深さも兼ね備えたプログラムだった。
- ・グループワークやアートや体操や歌の交流が、当事者の生活にポジティブな波及をもたらした。具体的には、他者との交流による前向きな刺激、自己成長や対人スキル向上、新しいことを体験し、学ぶことでの自己成長などがアンケートからも読み取れた。
- ・今年度に関しては、プログラムの回数や種類もかなり豊富だった。10日に1回のペースで何等かのプログラムが開催されている計算となる。これだけでも、物理的に当事者を取り巻く生活に波及した、といえるだろう。



(保護者代表 加納さん)

これまでのこぐまサロンのグループワークでの経験力をいかして、今年はサークル活動や野外活動などに参加した事で、地域の方々との出会いが多くあり、勇気と自信がついたように思う。これからも出会いと学びの場が続けられるようにと思います。



就労訓練をしていない当事者にとっての学びの意義

(山元町地域活動支援センター 引地さん)

長らく自宅療養をしていた当事者数名が、地域活動支援センターを会場とした歌やアートのプログラムに参加することができた。最初は集団活動に大きな抵抗感があったなか、講師や他の当事者らがつくる優しい、楽しい、温かな雰囲気に関心を許し、安心して参加できるようになっていった。就労訓練に参加していない当事者にとっても、他者との関わりの中で、自宅以外の余暇時間を自分らしく過ごすことができた。

学校在学中の生徒や保護者が、卒業後の日中活動や余暇の過ごし方について具体的なイメージを持つことにつながる

(山元支援学校教頭 菅原先生)

地域への居場所づくりを在学中から居住地の市町にも模索していくことが大切で、自分の趣味、嗜好など興味・関心事を見つけ、本人の生涯学習につなげていく意識が保護者には必要である。その啓蒙活動として、教員や保護者も巻き込んだアートワークショップを実施出来たことは、地域資源の利用、地域の情報収集につながった。特に教員は進路指導にとどまらず、学卒後のライフデザインを考慮した共生社会への関わりについての啓発につながった。

(アーティスト 元教員 今野さん)

- ・山元支援学校在学中にポラリスと繋がり、取り組みを知ったり、実際に体験したりするきっかけを作ることができた。支援学校とコラボレーションできたこと自体が大きな成果。前例ができたことで今後つながりやすくなる。
- ・アートワークショップを通して、余暇活動の選択肢を増やすことができた。
- ・アートプロジェクトを通してポラリスと学校、ひいては地域とつながることができたが、これを継続することが今後さらに重要になってくる。

行政・関係機関への波及

(生涯学習課)

第二期山元町教育振興基本計画の基本計画7の中で、「関係機関や団体と連携しながら、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、学んだことをもとに地域活動で活躍する機会を拡充させることで、共に生きる共生社会の実現を目指します。」とうたっている。ただ、これまで障害のある方の支援は保健福祉分野が多くを担ってきたことから、生涯学習という視点で考えるノウハウが、現時点では不足していると感じている。そのような中で、行政側が単独で事業に取り組むことや障害のある方の生涯学習の推進を図ることは非常に難しく、本事業のように率先して取り組まれている団体と連携させていただくことで、今後の共生社会の実現に向けて新たな一歩を踏み出せるのではないかと考えている。本事業を支援、協力していくことで、基本計画の実績として評価されることは間違いないことであり、感謝している。

(派遣社会教育主事 武内紳也さん)

昨年度まで10年間山元町の中学校教師をしていた。今年度から派遣社会教育主事として町の生涯学習に関わるようになり、また、様々な活動に足を運ぶ中で、障害のある人もない人も共に学び合うことの大切さや、素晴らしさに触れることができた。私自身が巻き込まれた一人でもある。このような素晴らしい取組を、地域に発信していくことが行政側でできる一つの取組であると考えている。まずは地域の人に知ってもらうことが大切である。昨年度は、成果報告会の案内を町内全戸に配布でき、このような地道な努力が地域を巻き込む第一歩になると思う。

また、文化とは長い時間や年月をかけて根付いていくものであり、1回の大きな波を起こすのではなく、持続可能で誰もが参加しやすい生涯学習を展開していくことが大切であると思う。ポラリスさんの取組は、地域の方々を巻き込みながら、障害のある人もない人もともに学び合うことのできる文化を一步一步、着実に山元町に根付かせていると感じている。

(保健福祉課)

サロンの事業でさまざまな成果が出ていることは、プログラム内容やアンケートからも実感している。行政としては、地域福祉計画をはじめとした個々の計画をツールとして、障害者の生涯学習が今後もよりよく継続されるように、そして良い計画ができるように検討していきたい。

(障害者基幹相談支援センター 小泉大輔さん)

・ゼロから作り上げた道筋は大変だったと思うが、行政、地域、学校などたくさんの方の協力のなかで3年間継続できたことは、すばらしい実績。今年度は、プログラムのジャンルもかなり広がっており、当事者にとっては様々なことにチャレンジするきっかけ、余暇活動の幅がひろがるきっかけとなったのでは。

・地域計画との関わりについては、障害者計画においては「地域共生社会の推進」、障害福祉計画においては「こころのバリアフリー」の文言について、それぞれの実践となった。当事者が地域に出ていく活動が、共生社会に向けたチャレンジであり成果であった。

・相談支援専門員としては、就労場面以外に、生活場面の様子を伺えることも、有意義であった。



今後の成果活用について

(山元町教育委員会生涯学習課)

サロンを通じて、当事者と地域の方が関わりを深めることができた。それが地域に障害者理解を広めることにつながったと思う。来年以降も、生涯学習課としても活動を継続していきたい。

(基幹相談支援センター)

(山元町障害者地域協議会運営事務局)

障害のある方が地域の中でいきいきと暮らすことをコーディネートする役割として、町内の相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、医療、行政機関などのハブとなりながら、相談支援専門員が障害のある方一人ひとりの可能性や多様性について理解を深める研修の場づくりを行い、障害の有無にかかわらず、地域でともに支えあいながら暮らすという考えの地域づくりを目指していきたい。

また障害のある方の学びの場での一面を、相談支援事業所として知ることが出来る機会ができ、その方のいろいろな一面に触れることでさらなる関係性の構築などにつながることに効果があったと感じている。

共に学び 生きる 共生社会コンファレンスinみやぎ

「体験してみよう・感じてみよう 障害者の生涯学習」コーナーに参加しました。

ライブアートや、ユニバーサル学習体験、出張カフェなど、それぞれのメンバーが得意なことを生かして、お客様との交流を楽しみました。



南三陸町 のぞみ福祉作業所のアート作品展示コーナーなど、ほかの展示ブースを見学しながら、立場を超えた楽しい交流ができました。



スポーツなどのプログラムを通して、県内各地から参加された他の団体との対話や交流も楽しみました。



「ユニバーサルな学習体験」コーナーで、県内の社会教育主事の方や公民館職員の方などと交流しました。

パネルディスカッション

テーマ：「共生社会について考える～地域の中で共に学び、共に体験し、かかわりあっていくために～」に登壇しました。



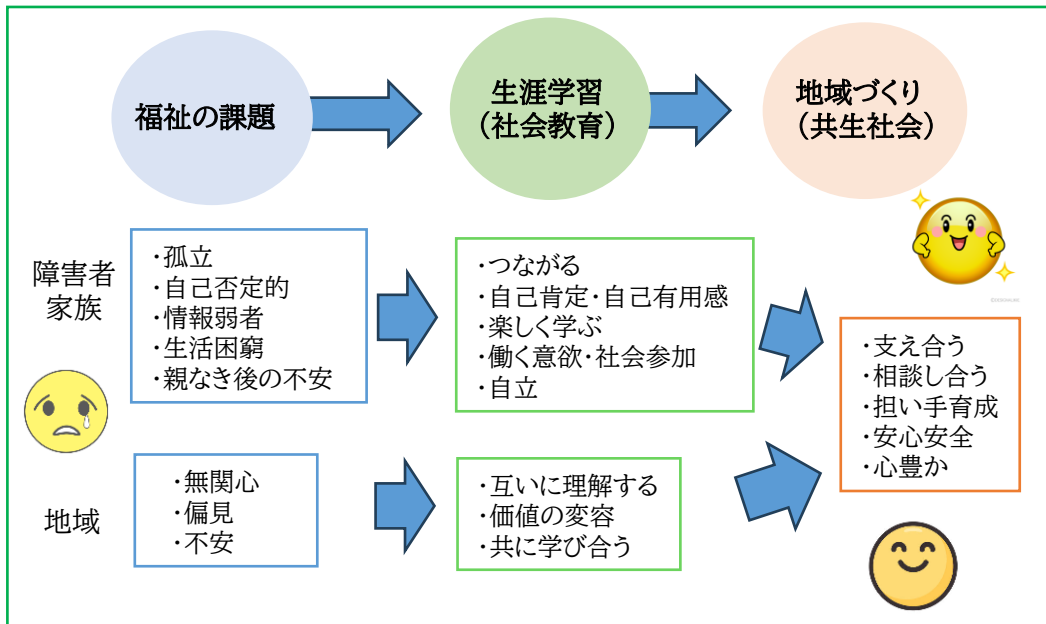
山元町のような人口の少ない、資源も少ない、マンパワーも足りない地域でもみんなで力を合わせると地域づくりができることを知っていただけましたら、この実践研究の価値となると思っています。

障害などで生きづらさを抱えて生きている人たちが孤立しないように、それから災害などが起きて、新たな地域の再生に取り組まなければならない地域などでも、この福祉と学びの連携は、地域づくりにとても有効だと言うことを、実践からお話しさせていただきました。



ボラリス 代表理事
田口ひろみ

報告スライドの一部：「教育×福祉」



個別支援という福祉の中だけでは解決できない課題も、社会教育との連携が当事者のエンパワメントや地域づくりにつながっていく、ということのイメージ。

私は普段、精神保健福祉士として障害のある方の支援業務を担っているが、そのソーシャルワークの重要な一つに「地域づくり」がある。また、社会教育士のミッションにも同様にこの「地域づくり」があり、目指すところは一緒だと実感している。

公民館や行政の担当の方が「障害者の学びの場づくり」をどこから始めようか、と悩まれた時は、その地域の福祉の専門職に相談したり連携してみると、その地域の障害者や福祉事業所などのニーズが把握でき、進めやすくなるのでは？

コンソーシアム等で他地域や団体の事例を学び合い、情報交換をすることで、地域の特性に即した学びの場づくりの方法を広め、深めていく。



さまざまな地域の社会教育／福祉／教育／行政等が集う県の会議に出席すると、障害者の生涯学習への取り組み状況は、それぞれの地域や団体が置かれている背景によって、大きく状況が異なるということを実感している。取り組みを進めていくのに大切なのは、地域に想いを共有できるキーパーソンがいるかどうかではないか。山元では3年間の実践を通して多くのキーパーソンとつながることができた。この財産を今後も大切にすること、また他地域での実践においても役立つ情報があれば、惜しみなくお伝えしていきたい。

(コーディネーター 田口ひろみ・引地奈美)

地域共生社会を具現化する「こぐまサロン」の取り組み

東北福祉大学 森 明人先生（山元こぐまサロン アドバイザー）

本プログラムの大きな2本柱は、その成果を踏まえて換言すれば、「ユニバーサル学習の開発」と「学習プログラムづくりを通じた学び続けることができる地域づくり」と言える。

ユニバーサル学習の開発は、今後の障害者の学びの幅を大いに広げるプログラムになることに留まらず、市町村の生涯学習のあり方にも1つの問題提起になる内容だろう。また、いま市町村で進む「地域共生社会」を理念にした地域づくりにおいても、共に学ぶユニバーサルな学習を位置付けることは、遅々として進まない市町村での障害者の社会参加にも、大きな方法論を提起することにつながると思う。

本プログラムの成果の概要は、令和4年度の評価で述べたことに尽きると考えるが、その内容として、学習プログラムの魅力を挙げさせて頂いた。楽しくみんなが学びやすいプログラムづくりの成功、その展開で地域を巻き込み、共に学ぶ場づくりが進み、そのプロセスで各取り組みが相乗効果をあげ、参加者のエンパワメント、地域のエンパワメントにつながっている成果が、様々な参加者の声によって確認することができた。

令和5年度の事業においても、同様の声が聞かれたことは、本事業が順調に推移した証左であり、本プログラムの成功をより明確にしている。例えば、「学びの出来事を自宅で家族に話す、文字を書くことができるようになった」、「人前で発表できるようになった」など、当事者が主体的に学ぶ様子が当事者の声からも語られている。こぐまサロンの学習活動が、当事者の日常生活のなかにおいて大きな「出来事」に位置付けられ、その内容が家族などに語られるようになったことは、リアリティのある成果である。

また、ポラリスがコンセプトとして掲げた「ユニバーサル学習」が、地域の人にも学びやすい学習プログラムの開発に成功していること、その結果、地域の行政区長や民生委員・児童委員の皆さんとこれまで存在しなかった学習空間を創出したことが大きい。本プログラムの「学びやすさ」が多くの人を参加させ、学びを通じた新たな関係の形成につながり、地域交流が広がったことは、今後の市町村の「地域共生社会」が目指すインクルーシブな誰もが参加し暮らし続けることができる地域づくりの参考となるだろう。

最後に課題を述べる。本事業を通して、2つの大きな特徴となった成果を、どのように持続可能なプログラムとして根付かせ、定着させていくことができるかが課題となる。

町内での今後の発展のかたちで課題は何か。特に、立地市町村である山元町の行政計画に施策として明確に位置付けることが課題である。本取組が、障害者福祉、生涯学習、地域福祉を横断する分野であり、行政分野にも連携が求められる。山元町が策定する「福祉の総合計画」である「第1期山元町地域福祉計画」における基本目標や施策である「参加型コミュニティ」や「仲間作り・居場所作り」などの項目に大きく関連する内容であり、この計画の中に共通課題として明確に位置付け、今後の多機関による連携・協働のもと、更なるプログラムの普及と発展を目指すことが、次なる課題となるのではないかと。



成果報告書

山元こぐまサロンを活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト3

(文部科学省 令和5年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業)

協 力 山元町
宮城県
ポラリス「こく・ふく」アトリエの会
ポラリス保護者会
宮城県立山元支援学校
山元町基幹相談支援センターやすらぎ
東北福祉大学
どらごえサークル
今野 裕結
しょうじ こずえ
ホップステップ
坂元元気アップ
フレッシュダンベル
三石 晃生

実 施 特定非営利活動法人ポラリス



発 行 日 2024年3月1日
発 行 者 特定非営利活動法人ポラリス
代表理事 田口ひろみ
住 所 〒989-2202 宮城県亘理郡山元町高瀬字合戦原72-64
TEL / FAX 0223-36-7410
E-mail koguma@polaris-yamamoto.com
ホームページ <https://polaris-yamamoto.com/>

